

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展

竹 内 道 雄

はしがき

本稿は、筆者が昭和五十一年四月から六十一年三月まで新潟県史中世史部会の調査・執筆員として標題について調査・研究した成果を纏めたものである。因みにここという越後とは、佐渡を含めた現在の新潟県を指す。

ところで『新潟県史通史編2中世』は、昭和六十二年三月三日付で刊行された。この巻の第三章「中世の生活と信仰」、第三節「教団と信仰」の中の「禅宗教団の展開」の項は、筆者の分担執筆であって、標題の筆者の調査・研究の成果はこの中に含まれて述べられている。しかし、『新潟県史』所載の拙文は、県史の性格や紙数の都合から、調

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

査・研究した成果の内容を圧縮したり、一部を省略して記述せざるをえなかった。ことにその際、年月を要して調査・研究した結果をもとに作成した各時代の開創・改宗の禅宗寺院の明細一覧表は、全て割愛を余儀なくされた。

本稿は、県史に記載できなかったこれらの資料を含めて、より詳細に標題について論述しようとするものである。これまで筆者は、標題に類するテーマで各誌に論考を発表してきた。⁽¹⁾ 本稿は県史を含めこれらの各論文と一連のものである。従って論述の過程において、それらと重複する箇所の存することは止むをえないことであり、読者のご寛恕を請いたい。

また本稿の記述に当たって『新潟県神社寺院仏堂明細帳』

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

（明治十六年、新潟県史編さん室所蔵）『全国寺院名鑑——新潟県——』（昭和四十五年八月、全日本仏教会・寺院名鑑刊行会）『新潟県寺院名鑑』（昭和五十八年十二月八日、新潟県寺院名鑑刊行会）『延享年度曹洞宗寺院本末牒』（江戸・明治時代作、大本山總持寺蔵版）および『曹洞宗寺院歴住世代名鑑』（平成元年十二月、新潟県曹洞宗青年会・筆者監修）等を参照、活用し、予め主要寺院の寺伝等を把握して実地踏査を行い、発見された史料で確認、補足しつつ叙述に努めた。しかし、収集した史料の検討、紹介は、本文中では全て割愛した。

なお本稿は既に発表した「越後の曹洞宗教団の展開——南北朝・室町時代——」⁽²⁾の続編である。

注

（1）「越後における曹洞宗教団の展開について（一）——元龜三年以前創立の小本寺を中心として——」『新潟県史研究』第七号（昭和五十五年一月、新潟県）、「越後における曹洞宗教団の展開について——中世草創期の概観——」『宗学研究』第十四号（昭和五十七年三月、駒沢大学）、「中世越後の禅宗教団の展開について」『宗学研究』第二十九号（昭和六十二年三月、駒沢大学）、「地方禅宗史の研究——越後・妻有地方を中心として——」『禅研究所紀要』第十七号（平成元年三月、愛知学院大学禅研究所）、「越後における中世禅宗教団の研究——新資料の紹介と南英謙宗の年譜——」『禅研究所紀要』第二十二号（平成六年三月、愛知学院大学禅研究所）

（2）「日本禅宗史の研究——越後における中世禅宗教団の展開——」『禅研究所紀要』第十八・十九合併号（平成三年三月、愛知学院大学禅研究所）

一 戦国、安土・桃山時代曹洞禅の大勢

応仁・文明の大乱（一四六七～七七）以後、約一世紀の間は、全国に大名が割拠して政治的統一は全く失われ、いわゆる戦国時代（一四九一～一五七二）となる。永禄十一年（一五六八）織田信長が入京し、天正元年（一五七三）信長が將軍足利義昭を追放するに及び、近世の幕開けとなり、安土・桃山時代（一五七三～一六〇〇）がおとずれる。前者の戦国時代は、統一した寺社政策は行われず、前代の五山・十刹の制度は崩壊したが、鎌倉新仏教は、教団の宗教として民衆の支持を受けて発展した。そのうち真宗と

日蓮宗は、農民等庶民の帰依を得て、一向一揆・法華一揆と連なり、戦国大名との間に激しい闘争を展開した。しかし、禅宗教団は、戦国大名と妥協し、むしろその精神的支柱となって戦国大名の盛衰と運命を共にした。

後者の安土・桃山時代に入り、全国統一の政策の一環として統一的宗教政策が行われるようになると、禅宗教団は支配者の庇護のもとにさらに発展を上げた。

さて越後・佐渡の中世曹洞宗教団は、既に発表の拙論等において述べたように〔はしがき(注2)参照〕、室町時代におけるその発展の基盤が確立し、戦国、安土・桃山時代に入ると、その基盤の上に立って隆々たる発展を上げた。

ところで越後・佐渡におけるこの両時代に開創・改宗された(寺伝も含む)曹洞宗寺院の大勢を表示すると、〔表〕No 1～No 17のようになる。

次にこの〔表〕を中心にして、戦国、安土・桃山時代における越後曹洞宗教団の発展の大勢について述べてみよう。まず戦国時代八十一年間に曹洞宗寺院として開創・改宗された寺院数は一五九カ寺であり、一年間に約二カ寺の割りで建立されたことが分かる。これを前代の室町時代に比

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

べると二倍の多きに達している。またこの内の小本寺(一カ寺以上末寺を持つ寺)の数は五七カ寺におよび、一年間に約〇・七カ寺の割りに建立されたことが知られ、これも前代に比べて約一割増となっている。

次に安土・桃山時代二十七年間に開創・改宗された寺院数は一一五カ寺であり、一年間に実に約四・三カ寺の割りに建立されたことが分かる。これも前代の戦国時代に比べて二倍余の多きに達している。また小本寺の数は二三カ寺で、一年間に約〇・九カ寺の数となり、前代に比べてやはり約一割多くなっているのである。

以上のように見てくると、曹洞宗教団は、室町、戦国、安土・桃山時代と時代が進むに従って発展の一途をたどっていったことができる。

次に戦国時代、安土・桃山時代に建立された寺院を現在の各地域に分けてみると、戦国時代では、下越七九カ寺、中越四九カ寺、上越二二カ寺、佐渡九カ寺となる。安土・桃山時代では、下越五六カ寺、中越二八カ寺、上越二三カ寺、佐渡八カ寺となる。両時代とも、その数の多い順からいうと、室町時代の場合と同じく、下越、中越、上越、佐

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(1)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
了庵	観音寺			東蒲原郡三川村谷花乙 319	草創は弘安・正応・永仁中(1287～98)僧改基による。元和年間(1615～21)観音寺10世大庵全吉以来観音寺末
傑堂	慈光寺	八	8	新津市秋葉1-9-1	当初田上の里に開創。永正元(1504)大鹿新田へ、慶長2(1547)新津へそれぞれ移転
天真	転輪寺	二	2	柏崎市常盤台5-1	天和年間(1681～84)元東雲寺を洞雲寺と改む。開創一説文明3(1471)
傑堂	雲洞庵			南魚沼郡大和町 大字九日町913	明暦年間(1655～7)藪神村和留佐より現在地へ移転
明峰	加賀大乗寺	○	2	上越市東雲町2-3-1	宝暦10(1760)中世の名刹「聖寿山至徳寺」の古跡に伽藍再建
了庵	上野雙林寺	二	2	小千谷市桜町3757	この年祝国開堂。開創は前年明応2(1493)。享保18(1733)現在地に移転再建
了庵	顕聖寺	四	6	糸魚川市大字羽生105	草創は越中立川寺不蔵可直(大徳宗令の法嗣)による。15C.末～16C.中通幻派の法孫により再興
天真	信濃興禅寺			糸魚川市中谷内751	伝元天台宗。現在の伽藍は文化3(1806)、文政13(1830)再建
傑堂	本田寺			佐渡郡佐和田町大字中原 385	
天真	洞雲寺			柏崎市久米737-1	
了庵	林泉庵			北魚沼郡堀之内町根小屋 1765	
傑堂	安養寺			中蒲原郡村松町上戸倉 1358	寺伝開創永正15(1519)、一説永正年間(1504～20)
了庵	上野雙林寺	十一	11	上越市大字中門前295	文明年間(1469～86)長尾能景開基。明応6(1497)開山曇英慧応により祝国開堂
傑堂	耕雲寺	十三	13	岩船郡朝日村大字大場沢 1847	寺伝開創大永7(1527)
了庵	普広寺			三島郡和島村根小屋571	元和2(1616)普広寺10世一翁呑香により中興再建
了庵	顕聖寺			東頸城郡安塚町安塚1345	

○印は末寺5ヵ寺以上を持つ小本寺。

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

〔表〕 越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
明応元	1492	種月山	龍耕寺	中興慈光寺7世 久庵貞可 (~1309)	僧 改基 中興小田切平六
明応2	1493	応明山	正法寺	久庵貞可	
明応2	1493	宝竜山	洞雲寺	勸請転輪寺開山 雷庵性隆 (1422~93)	2世 育 泉 法 延
明応2	1493	龍樹山	洞源寺	雲洞庵5世 天巖真性 (~1501)	
明応2	1493	華嚴山 抜提林	徳泉寺	華嚴 釈迦如来	撥草守護代長尾氏 引寺 福 永 重 三 郎
明応3	1494	宝林山	吉蔵寺	上野雙林寺3世 曇 英 慧 應 (1424~1504)	坂戸城主 長 尾 能 景
明応3	1494	龍雲山	耕文寺	中興 層 嶺 玄 岱	早川谷不動山城主 山 本 寺 孝 長
明応3	1494	梅松山	靈源寺	信濃興禅寺4世 徳 翁 祖 昌 (~1538)	
明応3	1494	三峯山	玉泉寺	本田寺開山 麗 天 宗 杲 (~1565)	瀬 下 治 兵 衛
明応4	1495	円通山	普傳院	正観音	洞雲寺3世 齡 室 建 寿
明応5	1496	針倉山	永林寺		僧 全 虎 (~1533)
明応6	1497	明中山	長寿院	安養寺3世 蘭 翁 性 孫 (正孫)	
明応6	1497	春日山	林泉寺	勸請上野雙林2世 一 州 正 伊 (1416~87)	長尾重景・能景
明応7	1498	大葉山	普濟寺	耕雲寺8世 固 剛 宗 嚴 (~1509)	鮎川信濃守 平 清 長
明応7	1498	天王山	繁慶寺	阿弥陀如来	普広寺2世 俊 岳 忠 詰 (~1521)
明応7	1498	萬盛山	賞泉寺		顯聖寺2世 黙 室 周 言 (~1529)

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(2)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	雲洞庵	○	1	南魚沼郡湯沢町土樽4595	寺伝大永2(1522)開創、一説天文17(1548)。元禄中(1688~1703)までは随所庵、元臨済宗関興寺末
了庵	上野 雙林寺	三	5 (4)	長岡市鷺巣町360	開創は延徳2(1490)以前2世直翁斎正(1438~1509)による(田浪龍之氏説)
傑堂	慈光寺	三	(3) 現4	五泉市川瀬518	
傑堂	西福寺	一	1	北蒲原郡水原町分田1043	本寺西福寺開創天文13(1544)とすると開創年代疑問
了庵	上野 玉泉寺	一	1	中蒲原郡村松町大字川内 1430	
傑堂	宗正寺			三条市東大崎4018	寺伝弘長年間(1260~63)真言宗永明庵として創建、一説文明元(1469)
石屋	徳昌寺	一	1	三島郡出雲崎町大門84	草創貞観年中(859~78)天台宗、寛正4(1246)蘭溪道隆により臨済宗紹応寺として再建。文安4(1447)焼失
了庵	上野 雙林寺	十一	11	柏崎市大字北条782	実際の開山は曇英の法嗣俊岳忠哲
了庵	東陽寺			西頸城郡能生町大字溝尾 963	
傑堂	定明寺			三条市塚野目931	寺伝貞和元(1345)真言宗大槻尼寺として建立
傑堂	宗正寺			三条市本町2-2-50	元禄2(1689)頃荒町村より現在地へ移転
傑堂	晃照寺			両津市住吉570	
傑堂	佐渡 本田寺			佐渡郡佐和町大字上長木 411	
傑堂	延命寺			中蒲原郡村松町刈羽丙 889	
天真	転輪寺			見附市太田町1738	正安3(1301)の頃円爾弁円開山の臨済宗として草創
天真	興泉寺	四	3	北蒲原郡中条町東本町 14-56	貞和2(1346)南禅寺25世平田慈均(~1364)臨済宗として草創
源翁	示現寺			東蒲原郡鹿瀬町大字実川	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
明応 8	1499	方丈山	瑞祥庵	雲洞庵 9 世 不 點 存 可 (~1548)	富 沢 作 左 エ 門
明応 年間	1492 ~1500	寶林山	定正院	勸請雙林寺 3 世 曇 英 慧 応 (1424~1504)	上 杉 定 正 中興(1443~94) 上 杉 謙 信
文亀 2	1502	持地山	願成寺	延命地藏	慈光寺 8 世 堅 宝 宗 玉 (~1528)
永正元	1504	玉応山	玉泉寺	福満虚空蔵	西福寺 4 世 雲 山 派 天 (~1570)
永正元	1504	雲栄山	永谷寺	上品 阿弥陀如来	上野玉泉寺 3 世 大 潮 浮 舶 (~1517)
永正元	1504	海福山 達摩峰	永明寺		宗正寺 3 世 庭 巖 宗 柏 (~1514)
永正元	1504	常在山	正応寺		徳昌寺 2 世 寿 山 篤 彭 (~1520)
永正元	1504	神興山	普広寺		勸請雙林寺 3 世 曇 英 慧 応
永正元	1504	南岳山	寶林寺		深沢城主 村山安芸守正勝
永正 2	1505	吉田山	大栄寺	観 音	定明寺 3 世 岫 山 俊 香 (~1520)
永正 2	1505	万年山	福昌寺		宗正寺 5 世 玄 室 宗 頼 (~1515)
永正 2	1505	松林山	瑞芳寺	十一面観音	宮 島 丈 左 エ 門 加 藤 重 助
永正 3	1506	應物山	大慈院	千手観音	中興本田寺 9 世 雪 山 用 吞 (~1661)
永正 5	1508	萬松山	浄光寺		延命寺 2 世 花 雲 宗 葩 (~1589)
永正 5	1508	恵日山	東福寺	阿弥陀如来	転輪寺 2 世 利 天 性 聡 (~1513)
永正 6	1509	平田山	大輪寺		興泉寺 3 世 委 岳 洞 察 (~1541)
永正 6	1509	岩屋山	山溪寺		示現寺 7 世桃溪

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(3)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
了庵	普広寺	一	1	柏崎市石曾根3216	承応3(1654)現寺号となる
傑堂	耕雲寺	八	8	新発田市蔵光小館2798	治安元(1021)天台宗神応院として草創。寺伝天正年間(1573~92)曹洞宗として改宗
傑堂	安養寺			中蒲原郡村松町下大蒲原 1708	寺伝永正5(1508)岡田十郎平開基
了庵	普広寺			柏崎市大字矢田1923	現在の本堂は安政2(1855)建立
了庵	普広寺			柏崎市木沢363	天喜の頃(1053~58)観音堂(庵)あり、難谷山竜沢寺と称す。中興後花隠寺となり、貞享年中(1684~88)花栄寺
了庵	観音寺			東蒲原郡上川村 字日野川丙982	草創文治2(1186)。文和3(1354)山寺に移るも永享5(1433)堂宇埋没。永正9(1512)明吞中興開基
傑堂	種月寺	一	1	柏崎市安田6493	安田城主安田上総介の菩提所
石屋	徳昌寺			刈羽郡西山町大字鎌田 597	
傑堂	吉祥寺	一	1	五泉市大字橋田巳429	
傑堂	種月寺	一	1	西蒲原郡分水町大字渡部 1195	開創一説天文年間(1532~54)、当初の寺号は吉伝寺
石屋	長善寺			新発田市長畑160	天文年中(1532~55)現在地へ移転。延享2(1745)これまでの満徳寺を現寺号とする
傑堂	安養寺			中蒲原郡村松町甲635	
了庵	真福寺	二	2	三島郡出雲崎町大字勝見 951-甲	長尾氏の祈願所
傑堂	雲洞庵	二	2	北魚沼郡堀之内町堀之内 4027甲	
了庵	耕文寺			糸魚川市大字上覚798	
傑堂	本田寺			佐渡郡金井町中興乙474	
傑堂	天樹寺			北蒲原郡笹神村大室2693	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
永正 6	1509	不動山	安住寺		普広寺 3 世 曇 芳 文 誉 (~1533)	石 曾 根 帶 刀
永正 6 以前	1509 以前	神応山	香傳寺	阿閼如来	耕雲寺 8 世 固 剛 宗 嚴 (~1509)	平保比丘尼 佐々木 春 綱
永正 7	1510	太原山	法幢寺	聖観音	安養寺 3 世 蘭 翁 性 孫	岡 田 十 郎 平
永正 8	1511	天徳山	寿慶寺		曇 芳 文 誉	正 庵 妙 悦
永正10	1513	雞谷山	花栄寺	正観音	中興 曇 芳 文 誉	中興 毛利丹後守高広
永正11	1514	高井山	嶺寒寺	聖観音	中興観音寺10世 大 庵 遄 吉 (~1645)	長 谷 部 春 信 中興 明 吞 力 生
永正16	1519	安住山	慶福寺		種月寺 6 世 麗 天 周 杲 (~1565)	
永正17 以前	1520 以前	飯盛山	妙照寺	薬師如来	徳昌寺 2 世 壽 山 篤 彭 (~1520)	
永正 年間	1504 ~21	寒遮山	岩松院		吉祥寺 2 世 玉 演 宗 珉 (~1521)	玉 演 宗 珉
永正 年間	1504 ~21	聖福山	吉田寺	聖観音	種月寺 7 世 楽 崇 文 韶 (~1537)	黒滝城主 照田越前守吉伝
大永元	1521	威清山	鳳林寺	阿弥陀如来	長善寺 2 世 一 爺 正 遵 (~1525)	安 室 和 尚
大永元	1521	慈眼山	清水寺	聖観音	安養寺 6 世 功 山 芳 作 (~1533)	坂 上 田 村 麻 呂
大永元	1521	龍護山	法持寺		真福寺 2 世 雲 室 蒼 龍 (1443~1526)	小木城主 松 本 大 学 景 繁
大永元	1521	春日山	普賢寺		雲洞庵11世 大 棟 寿 椿 (1505~1583)	僧 南 室
大永 2	1522	月波山	普済寺		耕文寺 2 世 大 盛 樹 英 (~1536)	早川不動山城主 山 本 寺 孝 長
大永 2	1522	金玉山	投瑯寺		中興本田寺 7 世 養 山 吞 育 (~1635)	
大永 3	1523	五嶽山	洞雲寺		天樹寺 2 世 無 芳 林 周 (~1535)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(4)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	耕雲寺	三	4	岩船郡神林村大字指合 912	
傑堂	慈光寺			加茂市大字黒水686	草創大同元(806)真言宗
傑堂	種月寺	一	2	西蒲原郡吉田町鴻巣2216	開創当初真言宗
傑堂	香伝寺			新発田市下石川157甲	開山は勧請か。開創以来固雲庵と称したが、戦後現寺号
了庵	上野嶽林寺	○	1	南魚沼郡大和町大崎3455	
了庵	顕聖寺			東頸城郡大島村大字岡 807	草創天台または真言の密教系寺院
傑堂	願成寺	三	3	五泉市大字菅出1008	開創一説天文21(1552)、草創真言宗東照院
天真	宝光寺			北蒲原郡京ヶ瀬村駒林 1768	元真言宗広岸院。寛永4(1627)養廣寺と号す
傑堂	慈光寺			中蒲原郡村松町牧1881	
了庵	観音寺			東蒲原郡津川町津川3242	
了庵	曹源寺			栃尾市大字中74	
石屋	長善寺			新発田市城北町2-2-4	
了庵	浄広寺			柏崎市大字東長島乙262	文明元～享禄4(1469～1531)臨済宗
傑堂	雲門寺			上越市日之出町4-6	
天真	信濃妙笑寺 (興禅寺)			西頸城郡能生町大字徳合 2141	
傑堂	耕文寺	三	3	西頸城郡能生町 大字下小見1172	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
大永 4	1524	玉典山	光明寺	阿弥陀如来	耕雲寺 9 世 天 初 蕊 源 (~1527)	
大永 5	1525	麟鳳山	賢聖寺	阿弥陀如来	慈光寺13世 鑑 室 玄 亀 (~1609)	中興 山 崎 八 兵 衛
大永 6	1526	吉田山	福巖寺		種月寺 6 世 麗 天 宗 杲 (~1565)	
大永 7	1527	龍沢山	固雲寺	地藏尊	耕雲寺 8 世 固 剛 宗 巖 (~1509)	
大永 年間	1521 ~27	八海山	龍谷寺	阿弥陀如来	嶽林寺 2 世 天 慶 宗 積 (~1568)	中 島 隼 人 中興 萩 田 主 馬 丞
大永 年間	1521 ~27	普門山	観音寺	聖観音	顕聖寺 3 世 雪 巖 光 欽 (~1546)	丸 田 権 九 郎
天文元	1532	菅名山	洞照院	観 音	願成寺 2 世 泉 邑 自 通 (~1555)	菅名但馬守重国
天文元	1532	桃源山	養廣寺		創建華報寺 4 世 芳 庵 尖 願 開山宝光寺 4 世 嶽 翁 麟 鷲	駒林城主 下条駿河守貞尚
天文元	1532	滝谷山	福昌寺		慈光寺14世 勝 峰 正 運 (~1629)	
天文元	1532	明海山	正法寺	地藏尊	観音寺 9 世 器 堂 存 朴	鶴 川 丹 波
天文元	1532	日光山	東昌寺	薬師如来	曹源寺 3 世 法 庵 寿 憲 (~1564)	法 庵 寿 憲
天文元	1532	現龍山	全昌寺	聖観音	長善寺 3 世 可 翁 遵 奕 (~1541)	新発田城主 佐々木治長
天文元	1532	長昌山	能満寺	虚空蔵菩薩	浄広寺 4 世 仙 庵 存 鶴 (~1570)	
天文元	1532	普門山	大慈院		雲門寺 6 世 照 庵 珠 鑑 (~1539)	
天文元	1532	睡翁山	宝昌寺		信濃妙笑寺 5 世 仲 翁 順 興 (~1560)	徳合城主 村 山 安 芸 守
天文元	1532	布袋山	龍光寺	大日如来	耕文寺 2 世 大 盛 樹 英 (~1536)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(5)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
傑堂	耕雲寺	八	8	岩船郡神林村平林1701	元真言宗。弘治年間(1555~7)か天正年間(1573~91)中興開基
了庵	東山寺	○	1	三条市吉田141	仁安の頃(1166~68)当郡坂井村に観音寺創立。建長3(1251)当所に移し護国寺とし、北条時頼回国時最明寺
傑堂	吉祥寺	○	1	中蒲原郡横越村木津598	元真言宗普門院開創、一説天正年間(1573~91)
了庵	観音寺 (陸奥安養寺)			東蒲原郡鹿瀬町 大字豊実甲1779	元禄9(1696)中興開山
了庵	林泉寺	二	3	中頸城郡柿崎町 大字芋島2727	開創文亀2(1502)、永禄6(1563)説あり。元密教寺院東泉寺
了庵	普広寺			柏崎市大字与板707	元天台宗か
了庵	上野玉泉寺	七	7	南蒲原郡栄町大字小滝 311	宝治2(1248)蘭溪道隆により臨済宗として草創。実際の中興開山は玉泉寺5世宣州元助
了庵	法持寺	一	1	北魚沼郡小出町 大字大浦174	貞治元(1362)真言宗厳松庵として創立、享徳元(1452)西福寺、文明2(1470)赤城山と改める、と伝える
了庵	観音寺	四	4	中蒲原郡横越村沢梅6925	満光・極楽・得船3寺合併、寛永8年(1631)開山勧請
了庵	西福寺			南魚沼郡大和町 大字門前253	享保6(1721)現在地に再建
傑堂	正法寺			中蒲原郡小須戸 大字矢代田4388	
傑堂	宗正寺			西蒲原郡中之口村 大字高野宮1770	元天台宗
了庵	上総長興院	四	5	長岡市栖吉3039	往昔臨済宗。越後守護上杉家の菩提寺・祈願寺、近世長岡藩主牧野家の菩提所
傑堂	光明寺	三	3	加茂市加茂町坂下280	大同2(807)真言宗神宮寺として創建
傑堂	普濟寺			新潟市沼垂東3-3-48	建久4(1193)真言宗として創建。寺伝では貞和4(1348)普濟寺6世の中興とあるが、普濟寺の中興は天文6(1537)なので疑問
了庵	定正院	二	2	村上市羽黒町4-1	寺伝開創天文18(1549)

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
○ 天文元 以前	1532 以前	普光山	千眼寺	千手観音	耕雲寺10世 大 翀 玄 甫 (冲) (~1532)	平林城主 色 部 長 真
天文元 以後	1532 以後	霊陰山	西明寺		中興東山寺9世 直 英 寅 佐 (~1632)	村 山 重 右 ヱ 門
天文 2	1533	普門山	圓通寺		吉祥寺8世 天 室 舜 長 (~1597)	石 井 隼 人 佐
天文 2	1533	松井山	観音寺	阿弥陀観音	中興 梅 巖 全 林	洞 家 の 僧 麟 貞
天文 3	1534	大仙山	楞嚴寺		勸請林泉寺3世 龍 室 玄 (元) 光 (~1511)	柿 崎 和 泉 守 景 家 (~1574)
天文 3	1534	泉福山	周広院	阿弥陀如来	普広寺5世 器 州 秀 道 (~1569)	八石城主 毛利大万亮周広
○ 天文 3	1534	曹溪山	東山寺		勸請玉泉寺1世 一 州 正 伊 以下4世	大西城主 丸 田 伊 豆 守
天文 3	1534	赤城山	西福寺	阿弥陀如来	勸請法持寺2世 芳 室 祖 春 (~1554)	楡 井 孫 九 郎 信 上 杉 謙
天文 4	1535	隆明山	大栄寺		中興観音寺11世 咲 (笑) 山 全 悦 (~1640)	溝口・小浜両家
天文 4	1535	石動山	浄光寺	阿弥陀如来	西福寺2世 空 山 春 也 (~1564)	
天文 5	1536	寶珠山	西善寺		正法寺3世 功 山 文 誉 (~1577)	田 村 蔵 人 介
天文 5	1536	東福山	新光寺	東方薬師 瑠璃光仏	月 田 宗 種 梅 巖 紋 雪 (~1542)	初 翁 隣 昌 和 上 (~1523)
○ 天文 6	1537	栖吉山	普濟寺		上総長興院2世 長 翁 昌 宗 (~1563)	城山城主 河 田 豊 前 守 三貫梨城主 金 原 大 膳
天文 7	1538	玉典山	大昌寺	虚空蔵菩薩	中興光明寺3世 黙 山 宗 間 (~1604)	黙 山 宗 間
天文 6 以後	1537 以後	祥壽山	龍雲寺	聖観音	中興普濟寺7世 源 安 吞 龍 (~1637)	畠 山 重 忠
天文 8	1539	真寶山	常福寺	文殊菩薩	定正院6世 保 山 祝 恕 (~1563)	堀 丹 後 守

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(6)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	耕雲寺	三	3	村上市羽黒町11-43	
傑堂	福勝寺	○	2	新発田市則清1516	
了庵	観音寺			北蒲原郡安田町保田3246	康安年間(1361~62)密宗の僧円融堂宇建設、慈眼寺と号す
了庵	羽前龍言寺	二	2	南魚沼郡六日町寺尾488	
傑堂	福勝寺			新発田市中央町2-2-5	
傑堂	岩松院			五泉市尻上甲354	
了庵	栖吉普濟寺	二	3	長岡市神田町1-4-10	
傑堂	大蓮寺			佐渡郡羽茂町 羽茂本郷1716-2	
傑堂	華報寺			北蒲原郡水原町 下条町5-23	開創一説天文元(1532)
傑堂	長安寺			豊栄市高森495-4	天正年間(1573~92)豊栄市長戸呂長安寺末となる
傑堂	雲洞庵			南魚沼郡六日町 大字大月1746	明応2(1493)長翁存茂により太宗寺という禅寺となる。江戸時代総雲寺と改名
傑堂	安養寺			中蒲原郡村松町笹野町 甲1441	
了庵	潮音寺			小千谷市山谷町2506	
了庵	普広寺			柏崎市大字水上18乙	天文18(1549)以前天台宗
普濟	陸奥宗徳寺	一	2	両津市加茂歌代 (北河内)3783	開創一説寛正元(1460)。実際の開山江西院4世然翁宗廓
傑堂	普濟寺			岩船郡朝日村 大字猿沢2740	この年安養寺・行福寺・瑞雲院の三カ寺合寺し、曹洞宗となる

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
天文 9	1540	万年山	長楽寺		耕雲寺11世 三 心 宗 伊 (~1557)	本莊越前守繁長
天文10	1541	大平山	養福寺	阿弥陀如来	福勝寺8世 教 室 恵 訓	根 雲 小 八 郎
天文10	1541	慈眼山	林昌寺	聖観音	観音寺8世 才 庵 透 芸 (~1589)	井 上 七 左 衛 門
天文10	1541	大應山	正眼寺		龍言寺3世 良 心 由 番 (~1554)	
天文11	1542	宝珠山	相円寺		勸請福勝寺5世 鳳 質 伊 察 (~1514)	
天文11	1542	慈眼山	正音寺	正観音	岩松院2世 隆 室 宗 徳 (~1546)	
天文13	1544	蔵王山	安善寺		上総長興院 長 翁 存 宗 (~1563)	中興 三輪九良左エ門 (~1640)
天文13	1544	萬劫山	千光寺	千手観音	中興大蓮寺30世 得 山 (心) 俊 明 (~1902)	大蓮寺4世 外 中 英 (永) 心 (~1529)
天文13	1544	玉峰山	西福寺		華報寺4世 芳 庵 尖 頤 (~1544)	佐藤長左衛門重之
天文13	1544	高森山	薬師庵		華報寺4世 芳 庵 尖 頤	窠 頤
天文15	1546	富士山	総雲寺		雲洞庵7世 不 點 存 可 (~1548)	坂戸城主 城 之 多 良 亮 長
天文17	1548	普門山	永福寺		安養寺11世 全 岩 玄 的 (~1571)	
天文17	1548	薬王山	善祥寺	薬師如来	潮音寺3世 月 堂 正 鶴 (~1576)	稻 葉 形 部 卿
天文18	1549	遍照山	大光寺		普広寺4世 龍 山 文 経 (~1562)	
天文18	1549	雲晴山	富月寺	十一面観音	勸請陸奥宗徳寺3世 宝 山 正 珍 (~1498)	歌代地頭 渋谷四郎左エ門直清 (~1578)
天文19	1550	龍鳳山	瑞雲寺	華嚴釈迦	普濟寺7世 天 松 祖 龍 (~1600)	普濟寺4世 華 運 守 栄 中 山 蔵 人

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(7)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	岩代勝方寺	○	1	新発田市大字松岡乙 235-5	寺伝草創文亀元(1501)
天真	高安寺			上越市大字西横山	
傑堂	耕雲寺	六	6	岩船郡山北町大字府屋 236	
傑堂	宝積寺			新発田市大友1346	建長年間(1249~56)真言宗として 草創
傑堂	普濟寺			岩船郡朝日村 大字鶴渡路2002-乙	寺伝草創応永4(1397)元真言宗
傑堂	慈光寺			北蒲原郡聖籠町 大字次第浜3056	本尊の脇立観音に宝徳元年丙申長密 の銘ありと伝う(1449己巳)
傑堂	東福院			刈羽郡西山町和田579	
天真	轉輪寺	五	5	栃尾市谷内2-7-7	初め報恩林常安寺と号す。弘治元 (1555)に清瀧山護国報恩林常安禅寺 と改む
傑堂	千眼寺	八	8	岩船郡神林村大字有明73	
傑堂	華報寺	一	1	北蒲原郡水原町中島町 8-9	寺伝草創天平16(744)、七島山長福 寺と号す。開創一説天正年間(1573 ~91)
了庵	定正院			長岡市六日市町1753	
了庵	上野 雙林寺	○	1	十日町市大字馬場戊112	
傑堂	禅長院			中頸城郡頸城村大字榎井 577	
傑堂	高岩寺			岩船郡山北町大字大谷沢 793	
傑堂	陸前 輪王寺	一	1	北蒲原郡豊浦町荒町1489	2世の翁是端の時、現寺号を称す
了庵	顕聖寺			東頸城郡大島村大字大平 3880	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代 (1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
天文20	1551	嶽岡山	瑞泉寺	岩代勝方寺3世 彩庵薬紋 (～1564)	松岡城主 井上水主正
天文20	1551	金峰山	龍興寺	高安寺3世 天雪梵吉 (～1555)	笠原彦兵衛
○ 天文21	1552	雲峰山	高岩寺	耕雲寺11世 三心宗伊 (～1557)	大川三郎次郎
天文21	1552	護法山	東泉寺	宝積寺5世 易心間坊	大友駿河守実秀
天文年間	1532 ～54	如来山	佛沢寺	普濟寺7世 天松祖龍 (～1600)	悟安長頼
天文年間	1532 ～54	松沢山	永泉寺	阿弥陀如来 慈光寺7世 問(門)嶺長儒 (～1599)	
天文年間	1532 ～54	白毫山	東光寺	東福院6世 天桂洞春 (～1561)	坂谷忠兵衛
○ 天文19～ 弘治元	1550 ～55	清瀧山	常安寺	瑞麟寺 泰簾門察 (1501～68)	上杉謙信
○ 弘治2	1556	遍照山	光浄寺	十一面観音 千眼寺3世 底寂玄徹 (～1571)	
弘治2	1556	中島山	長福寺	薬師如来 華報寺7世 快漣源恕 (～1567)	伝行基
弘治2	1556	金蔵山	龍昌寺	定正院7世 欠応円達 (～1598)	
弘治2	1556	吉祥山	観泉院	聖観音 雙林寺9世 奪州呑與 (～1569)	
弘治2	1556	浄池山	西泉寺	中興禅長院12世 玄国宗頼 (～1660)	
永禄元	1558	大谷山	長泉寺	薬師 瑠璃光如来 高岩寺2世 杲天元珊 (～1574)	
永禄元	1558	円通山	蓮華寺	輪王寺7世 靈庵宗鷲 (1526～94)	大庄家 阿部隼人輔
永禄元	1558	大平山	大安寺	顕聖寺7世 然翁是廊 (～1582)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(8)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	高岩寺			岩船郡山北町中982	
無底	正統寺			北蒲原郡黒川村夏井310	開創一説永禄8(1565)
傑堂	長禅寺	○	2	南蒲原郡下田村原894	開創一説永禄6(1563)
了庵	朝日寺	一	1	柏崎市鯨波3-7-33	
天真	越前永春寺	一	1	西頸城郡名立町小泊363	現伽藍宝暦7年(1757)落成
天真	信濃興禅寺	二	2	西頸城郡名立町大字車路383	
普济	富月寺			両津市秋津367	創立当初長福寺と称す。享保元(1716)薬師寺と改む
傑堂	高岩寺			岩船郡山北町大字鶴泊54	
傑堂	耕泰寺			三条市上保内122	
普济	長福寺			南魚沼郡六日町麓159	開創一説天文年間(1532~54)当初富福寺と称し、本尊は地藏
如仲	信濃定慶院	一	2	中魚沼郡津南町大字中深見船山乙1188	元天台宗。現天台宗正宝院は往時末寺
傑堂	雲洞庵			北魚沼郡川口町大字中山280	宝暦年間まで臨江庵という
天真	宗龍寺			西頸城郡明立町大字森501	伝元真言宗
傑堂	宝積寺			新発田市虎丸291	
了庵	桐盛院			刈羽郡小国町横沢2405	
了庵	朝日寺			三島郡越路町大字不動沢666	元真言宗

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
永禄2	1559	宝珠山	耕太寺	聖観音	高岩寺2世 杲天元 珊 (~1574)	
永禄2	1559	風蔵山	円福寺		正統寺8世 密山 秀 巖 (~1565)	
永禄2	1559	青原山	栄雲寺	虚空蔵菩薩	長禅寺5世 大翁 顯 幢 (~1581)	長尾新四郎 (~1592)
永禄2	1559	普門山	妙智寺		朝日寺4世 壑心源 巨 (~1565)	慈照院 光室妙智大姉 (謙信伯母)
永禄2	1559	大宝山	宗龍寺		永春寺7世 輝山 藝 嗽 (~1608)	池垣市右エ門 池 亀 氏
永禄2	1559	法輪山	常泉寺		勧請興禅寺5世 仲翁 順 興 (~1546)	梅庵林芳記室
永禄2	1559	医王山	薬師寺	薬師如来	勧請富月寺3世 昌山 寿 繁 (~1689)	善 永 長 積
永禄3	1560	瑞雲山	泉龍寺	千手観音	高岩寺3世 明山 雲 察	本間権兵衛
永禄3	1560	滝沢山	円光寺	地藏願王	耕泰寺2世 雪庭 林 秀 (~1614)	柏 翁 玄 松
永禄3	1560	船岳山	真浄寺		長福寺4世 巖室 文 庭 (~1575)	水澤吉兵衛
永禄4	1561	船秀山	大龍院	聖観音	信濃常慶院9世 嶽翁 天 鷲 (~1574)	
永禄5	1562	太白山	林興庵		雲洞庵14世 瞭翁 守 的 (~1604)	雪洞庵12世 鶴翁 玄 林 (~1579)
永禄5	1562	安養山	善興寺	阿弥陀如来	中興宗竜寺2世 仁庵 義 守 (~1631)	森山城主 安達左エ門
永禄6	1563	虎溪山	新光寺	薬師如来	宝積寺5世 易心 間 坊	
永禄6	1563	赤城山	瑞音院		桐盛院3世 天巖 存 祝 (~1615)	
永禄6	1563	不動山	満光寺	放光王地藏	朝日寺9世 南嶺 全 継 (~1571)	勝平城主 南条修理亮

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(9)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	宝積寺			新発田市大友1346	建長年間(1249~56)真言宗として草創
傑堂	高岩寺			岩船郡山北町字北黒川 556	
了庵	普広寺			北魚沼郡守門村大字須源 578	
了庵	普広寺	三	3	小千谷小栗田961	普広寺4世人安全佐は永禄9年に北魚沼郡守門村に円明寺を開いており、黄南の中興した西光寺との合併建立もこの時期と推定
傑堂	耕雲寺			村上市瀬波660	草創弘治元(1555)水月庵と称す。その後、玉護庵一大龍寺と改称
普濟	長福寺			中魚沼郡川西町霜条590	
傑堂	吉祥寺			西頸城郡能生町大字藤後 634	開基当初青替山長慶寺と称す。後、美濃竜泰寺広山玄照を第一世に請し、現山寺号となる。慶長6(1601)淳南を開山とする
傑堂	定光寺			加茂市若宮町1-9-1	
傑堂	千眼寺			岩船郡荒川町大字金屋 2214	平林城主色部氏譜代の寺
傑堂	宝寿院			中頸城郡板倉町筒方1719	本寺宝寿院開創天正元(1573)であるので、その6世の開山は疑問
傑堂	佐渡太運寺			佐渡郡畑野町三宮257	
傑堂	普濟寺			岩船郡朝日村大字岩沢 979	
傑堂	耕雲寺			岩波郡山北町字浜新保 286-1	
傑堂	耕雲寺			岩船郡神林村七湊1798	草創応永元(1394)古義真言宗
傑堂	福勝寺			北蒲原郡豊浦町 大字下中ノ目721	伝元浄土宗
傑堂	願成寺			五泉市大字今泉77	地藏庵として創建

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
永禄 6	1563	護法山	東泉寺	宝積寺 5 世 易 心 間 坊	大友駿河守実秀
永禄 8	1565	龍泉山	長谷寺	延命地藏 高岩寺 2 世 胡 (杲) 天 元 珊 (~1574)	富樫太郎左衛門
永禄 9	1566	西光山	圓明寺	普広寺 7 世 人 安 全 佐 (~1576)	
永禄 9 頃	1566 頃	福聚山	潮音寺	中興普広寺 4 世 人 安 全 佐 (~1576)	黄 南 即 梅 (~1279)
永禄11	1568	錦藍山	大龍寺	耕雲寺18世 月 通 雲 良 (~1619)	
永禄11	1568	赤城山	清竜寺	長福寺 6 世 伝 室 存 盛 (~1612)	星 名 九 右 衛 門
永禄12 以前	1569 以前	瑞雲山	海龍寺	吉祥寺開山 淳 南 文 朴	山 貴 藏 主 (勸請広山玄照)
永禄 年間	1558 ~69	龍澤山	雙璧寺	薬師如来 是珊(~1601) 勸請定光寺 2 世 中巖恕約(~1620)	上 杉 謙 信
永禄 年間	1558 ~69	奇特山	大雄寺	聖観音 千眼寺 3 世 庭 寂 玄 徹 (~1571)	
永禄 年間	1558 ~69	経嶽山	善昌寺	宝寿院 6 世 然 嶺 存 洞 (~1613)	三陽巖泰和尚 清水周二家の先祖
永禄 年間	1558 ~69	建立山	法幢寺	太運寺 2 世 快 峯 憐 悦 (~1582)	名 古 屋 四 郎 安 藤
元亀元	1570	朝日山	醫泉寺	東方瑠璃光 薬師如来 普濟寺 7 世 天 松 祖 龍 (~1600)	
伝 元亀元	1570	龍白山	佛照寺	阿弥陀仏 耕雲寺14世 剛 安 寿 金 (~1596)	
元亀元	1570	七瀉山	海蔵寺	阿弥陀如来 耕雲寺16世 海 応 寿 山 (~1615)	
元亀元	1570	天龍山	円福寺	阿弥陀如来 福勝寺 4 世 鑑 室 間 察	水 間 出 羽 守 則 長
元亀元	1570	延命山	忠山寺	延命地藏 願成寺 5 世 南 勝 文 瞬 (~1578)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(10)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
傑堂	慈光寺			新津市古津601	当初光田山観音寺、慶長2(1597)現山寺号
傑堂	長禅寺			南蒲原郡下田村新屋561	
傑堂	信濃龍雲寺雲洞庵	五	5	中魚沼郡川西町元町甲2941-3	
了庵	下野大中寺	五	5	上越市寺町3-4-42	
了庵	顕聖寺			上越市中央5-2-46	草創康平年間(1058~64)当初真言宗
傑堂	佐渡本田寺			佐渡郡金井町大字中興乙700	天文21(1552)真翁和尚(本間摂津守)の開基
傑堂	長安寺			刈羽郡小国町小国沢2421	寺伝では開創文正元(1466)長安寺3世貫室によるとあるが、長安寺の開創は元亀元(1570)であるから疑問、元真言宗
傑堂	千眼寺			岩船郡神林村大字南田中839	
傑堂	長禅寺			南蒲原郡下田村牛野尾156	
普濟	長福寺			南魚沼郡六日町大字四十日396	当初岡平に竜清庵として建立。延宝5(1677)現在地に移転、現山寺号に改称
傑堂	種月寺			西蒲原郡巻町大字赤鎗461	
天真	寶光寺			新発田市大字八幡1239	本寺宝光寺の開創が天正11~文禄4(1583~95)と考えられるので、開創年代開山は疑問
傑堂	千眼寺			岩船郡荒川町大字春木山1415	元真言宗
傑堂	福勝寺			新発田市中曽根町3-2-17	元真言宗
傑堂	蓮華寺			新発田市西蓑口298	当初慶教庵と称したという
傑堂	長楽寺			五泉市佐取町2311	草創永承2(1047)真言宗

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
元亀元	1570	慈雲山	広大寺	光田聖観音	慈光寺役寮 心 光 円 月 (~1571)	皆 木 茂 左 衛 門 皆 木 文 右 衛 門
元亀元	1570	熊野山	長見寺	薬師如来	長禅寺5世 大 翁 顯 幢 (~1581)	治 郎 左 衛 門
元亀元	1570	積雲山	長安寺		信濃竜雲寺 鳳 庵 存 龍 (~1588)	上 野 長 安 (心 翁 永 伝)
元亀元	1570	正眼山	光栄寺	大日如来	快 叟 良 慶 (~1576)	柳 原 忠 次
元亀元	1570	慈眼山	観音寺		顕聖寺5世 春 岩 仁 立 (~1559)	美 濃 屋 善 兵 衛 清 房
元亀元	1570	中興山	興源院		中興本田寺10世 風 巖 雲 堯 (~1681)	沢根城主 本 間 撰 津 守 (~1588)
元亀元 以後	1570 以後	新浮海山	真福寺		長安寺3世 貫 室 舜 理 (~1607)	北 原 伝 兵 衛
元亀元 以前	1571 以前	大埜山	福源寺		千眼寺3世 底 寂 玄 徹 (~1571)	祥 山 良 禎
元亀2	1571	天祥(神)山	常福寺		長禅寺5世 大 翁 顯 幢 (~1581)	
元亀2	1571	大雲山	宗龍寺		長福寺5世 鳳 山 林 鷲 (~1590)	
伝 元亀2	1571	廓雲山	西福寺		種月寺11世 傑 宗 梵 英 (~1571)	
元亀3	1572	富士山	龍澤寺		宝光寺7世 園 山 靈 鉄 (~1675)	神祇官 藤 原 正 次
元亀 年間	1570 ~72	廣谷山	西法寺	大日如来	千眼寺3世 庭 寂 玄 徹 (~1570)	超 岩 宗 和 尚
天正元	1573	聖籠山	正竜寺		福勝寺11世 撰 叟 梵 清 (政)	
天正元	1573	龍地山	浄国寺		蓮華寺2世 的 翁 是 端	江 島 兵 部
天正元	1573	宝珠山	長徳寺	正観音	勧請長楽寺2世 杲 天 伊 珊 (~1576)	宗 伊 和 尚

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(11)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
天真	興泉寺			北蒲原郡保田町小浮1578	伝元真言宗。明和2(1765)現在地に移転
傑堂	福勝寺			北蒲原郡豊浦町字本田王 250	当初は真言宗で靈光寺と称す
了庵	曹源寺	○	1	見附市本町3	天明元(1781)全伽藍焼失、現在の伽藍は昭和50(1975)建立
了庵	顕聖寺			東頸城郡浦川原村小谷島 519	
普濟	長福寺			東頸城郡松之山町藤倉 660	
傑堂	雲門寺	十二	10	中頸城郡板倉町大字針38	元山寺三千坊の一、円樂寺と称す。寺伝開創天正年間(1573~91)
了庵	直指院			糸魚川市大字中浜1307	本寺直指院開創慶長3(1598)なので開創年代、開山疑問
了庵	林泉庵			北魚沼郡小出町干溝23	創建後荒廃、林泉庵15世徳運甫光享保の初め(1716~)中興
傑堂	東福院	○	1	柏崎市宮川211	開創後無住、寛政年間(1789~1800)東福院22世泰嶺普泉により再興、開創一説天正7(1579)
傑堂	長樂寺	一	1	岩船郡朝日村大字塩野町 189	
了庵	潮音寺			小千谷市千谷町甲1033	草創文明年間(1464~87)、当初長安禪寺。元禄年間(1688~1704)現在地へ移転、現寺号となる
大徹	長命寺	1		東頸城郡松之山町松之山 1209	当初陽徳庵、天正2(1572)より現寺号
了庵	美濃龍泰寺	五	3	上越市寺町3-4-39	開基上杉謙信の帰依を受けしと伝う
傑堂	願成寺			五泉市能代甲198	
傑堂	正法寺	二	2	新津市金津279	
傑堂	長禅寺	○	1	加茂市上土倉字天ヶ沢 135	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
天正元	1573	青龍山	安穩寺	興泉寺6世 昌山春林 (~1589)	
天正元	1573	諏訪山	仲山寺	福勝寺11世 撰叟梵清 (~1595)	永 岩 律 師 (~1395)
天正元	1573	勝流山	智徳寺	曹源寺4世 泰翁芳哲 (~1583)	山 谷 茂 助
天正元	1573	龍雲山	宝台寺	顯聖寺9世 甄室門察 (~1615)	柏 雄 和 尚
天正元	1573	龍巖山	正法寺	長福寺4世 巖室文庭 (~1573)	小野塚勘兵衛
天正元	1573	感応山	宝寿院	勸請雲門寺7世 大梁宗棟 (~1542)	竹 俣 某
天正元	1573	大峰山	禅雄寺	直指院4世 蘭叟傳栄 (~1583)	越後豪族伴氏
天正初	1573～	歓喜山	宝泉寺	勸請林泉庵5世 笑巖舜泰 (~1534)	
永禄一 天正年間	1558 ～73	石動山	龍泉寺	東福院9世 鉢室祖用 (~1579)	吉 田 兵 庫
天正2	1574	白雲山	龍門寺	文殊菩薩 長樂寺2世 杲天元珊 (~1574)	小田甚左衛門
天正2	1574	千谷山	長樂寺	阿弥陀如来 潮音寺2世 舜窓廣堯 (~1617)	無三易公 記室禅師
天正2	1574	繁茂山	陽広寺	長命寺4世 大翁益周 (~1573)	村山藤右衛門 (~1453) 中興村山藤右衛門正道 (~1613)
天正2	1574	日峰山	海隣寺	美濃竜泰寺11世 大洞正桃 (~1605)	上 杉 謙 信
天正3 以前	1575 以前	萬代山	宗堅寺	願成寺4世 雪伝玄朔(刻大) (~1575)	
天正3	1575	慈眼山	高巖寺	正法寺4世 華屋宗摩(曇)	
天正3	1575	蔵龍山	大雲寺	長禅寺5世 源峯彭達 (~1598)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(12)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	定明寺			三条市塚野目1867	
傑堂	雲洞庵			南魚沼郡塩沢町舞子1564	草創文明3(1471)存天從竜(積興庵3世)臨済宗法林庵を開創
傑堂	晃照寺			両津市羽吉329	
天真	常泉寺	一	1	西頸城郡能生藤崎3221	
普濟	長福寺	○	1	東頸城郡松代町大字松代 2136	開創一説天正5年(1577)
傑堂	洞照院			五泉市大字土堀字上之代 41	
了庵	東山寺			見附市庄川町1673	
天真	名立寺			西頸城郡名立町大字丸田 1026	草創応永26(1419)ごろ大徹宗令の法嗣月桂立乗により開かる
天真	常泉寺			西頸城郡名立町 大字杉野瀬19	
普濟	長福寺			中魚沼郡川西町友重乙 120甲	元真言宗または天台宗
傑堂	宝寿院			中頸城郡妙高村大字関山 5085甲	(単立)
了庵	東山寺			見附市坂井町2342	
了庵	上野 雙林寺			十日町市小泉1051	
傑堂	佐渡 東光寺			佐渡郡赤泊村大字徳和 534-1	
傑堂	普濟寺			村上市間島960	
傑堂	正法寺			中蒲原郡小須戸町水田 1796	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
天正 3	1575	塚目山	正通寺		定明寺 6 世 正 質 聞 的 (~1575)	
天正 3	1575	飯士山	宝林寺	阿弥陀如来	雲洞庵 12 世 壑 翁 玄 林 (~1579)	長尾房景・政景
天正 3	1575	樹覆山	大栄寺		晃照寺 7 世 深 庵 元 達 (~1635)	羽黒地頭 渋谷 因 幡 守
天正 4	1576	出雲山	長澤寺		常泉寺 3 世 圓 窓 全 鑒 (~1585)	長 澤 政 紹
天正 4	1576	单伝山	少林寺		長福寺 6 世 傳 室 存 盛 (~1612)	柳 丹 助
天正 6 以前	1578 以前	菅谷山	正雲寺	観 音	洞照院 4 世 南 勝 文 舜 (~1578)	
天正 6 以前	1578 以前	龍頭山	庄川寺		東山寺 10 世 骨 州 寅 徹 (~1650)	
天正 6	1578	池竜山	善照寺		名立寺 3 世 大 応 春 理 (~1589)	
天正 6	1578	神靈山	竜昌寺	千手観音	常泉寺 5 世 了 室 順 達 (~1667)	全 鑑 和 尚
天正 7	1579	白雲山	長徳寺	千手観音	長福寺 6 世 伝 室 存 盛 (~1612)	
天正 7 以前	1579 以前		宝海寺	阿弥陀如来	宝寿院 12 世 洲 山 道 益	僧 慶 也
天正 8	1580	龍谷山	妙雲寺		東山寺 6 世 喜 雲 慶 悦 (~1590)	龍 谷 妙 雲 尼
天正 8	1580	水澤山	宝泉寺		雙林寺 13 世 大 通 関 鉄 (~1632)	藤 本 長 左 門 酒 井 清 寛
天正 8	1580	海潮山	観音寺	聖観音	東光寺 9 世 篤 巖 靈 鷲 (岸)(~1588)	横 小 路 吉 兵 衛
天正 9 以前	1581 以前	能化山	仲雲寺	十一面観音	普濟寺 5 世 安 嶽 守 康 (~1581)	泰 澄
天正 9 以前	1581 以前	池意山	千昌寺		正法寺 3 世 功 山 文 誉 (~1581)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(13)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	慈光寺	一	1	中蒲原郡村松町 大字南田中1256	草創延徳3(1491)と伝う
傑堂	長禅寺			加茂市下高柳字谷地631	寺伝天元4(981)~天正8(1580) 天台宗
傑堂	慈光寺			中蒲原郡村松町大字熊沢 1238	
了庵	曹源寺			北魚沼郡入広瀬村穴沢 1126	現在本尊釈迦牟尼佛
天真	来迎寺			新発田市五十公野1766	草創大蟲宗 峯(1512~99)と伝う。天 正10(1582)宝珠山桂昌寺建立。江戸 時代再興し養源寺と改め、後、現寺 号に改む
了庵	顕聖寺			中魚沼郡津南町中深見乙 1118	
傑堂	佐渡 大蓮寺			佐渡郡羽茂町大字大石 1075	元天台宗、海寿院東大寺と号す
了庵	直指院			糸魚川市根小屋1224	元真言宗
天真	洞雲寺			柏崎市東本町1-9-10	寺伝、延暦年中(782~806)最澄房鬼 山常福寺を建立。天正11(1583)然室 現在地に移転改宗、元天台宗
傑堂	普賢寺			北魚沼郡堀之内町大石 687	
傑堂	長安寺			十日町市南鑑坂1490-1	
天真	若狭 諦応寺	十一	15	新発田市諏訪町2-4-1	寺伝開創天正11~文禄4(1583~95) 大聖寺に当山開創、大隣寺と称す。 慶長3(1592)新発田へ移り浄見寺と 改め、宝永6(1709)現寺号
了庵	観音寺			東蒲原郡三川村大字岡沢 1336	
傑堂	普賢寺			北魚沼郡守門村須原560	草創寛元年間(1243~46)僧自円結庵
天真	名立寺			西頸城郡名立町 大字田野上914	
了庵	浄広寺			柏崎市山室726	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
天正 9 以前	1581 以前	廣田山	延命寺	延命地藏	慈光寺10世 一 山 宗 倍 (~1581)	
天正 9	1581	高柳山	善興寺		長禪寺 5 世 大 翁 顯 憧 (~1581)	
天正 9	1581	熊沢山	清光寺		慈光寺10世 一 山 宗 倍 (~1581)	
天正 9	1581	不動山	龍沢寺	阿弥陀如来	曹源寺 6 世 庭 庵 邦 徹 (~1626)	枋尾城主 松 平 筑 後 守
天正10	1582	寶珠山	光源寺		来迎寺 2 世 再 興 端 雄 淵 州 (~1663)	渋 谷 近 栄 (入 道 浄 心)
天正10	1582	深見山	龍源寺		顯聖寺10世 日 山 建 慧 (~1624)	
伝 天正10	1582	長広山	円満寺	虚空蔵菩薩	修学万行開山 改宗大蓮寺15世 高 獄 梵 道 (~1675)	
天正11 以前	1583 以前	不動山	安福寺		直指院 4 世 再 興 蘭 叟 傳 栄 (~1637)	明 西 翁 道 哲 片 房 家
天正11	1583	柏葉山	常福寺	毘沙門天	洞雲寺 4 世 然 室 祖 廓 (~1583)	然 室 祖 廓
天正11	1583	地福山	天宗寺		普賢寺 3 世 益 勝 元 積 (~1593)	大 石 播 磨 守
天正11	1583	玉重山	東光寺	正観音	長安寺 2 世 日 州 泉 策 (~1592)	上 杉 景 勝
天正11	1583	廣澤山	寶光寺		諦応寺 雪 堂 元 初 (~1597)	溝 口 秀 勝
天正12	1584	少林山 (小)	龍澤寺	菩提達磨	観音寺 9 世 器 堂 存 朴 (~1599)	柳 山 聯 大 和 尚
天正12	1584	慈眼山	普門院	正観音	普賢寺 5 世 調 尺 (天) 翁 達 (~1623)	目 黒 善 右 工 門 (~1641)
天正12	1584	東流山	長国寺	延命地藏	名立寺 3 世 大 応 春 理 (~1589)	華嶽理春大和尚
天正13 以前	1585 以前	吉祥山	普廣寺		浄広寺 5 世 日 州 曇 杲 (~1622)	祥雲院殿 徳玄賢光大居士 (氏名・年代不詳)

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(14)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
傑堂	千眼寺			岩船郡荒川町大字荒島 1055	当初、長福寺と称し、享保16(1731) 現寺号に改称
傑堂	本田寺			佐渡佐和田町八幡 1679の子	
傑堂	華報寺			北蒲原郡笹神村 大字次郎丸1381	
傑堂	雲洞庵			十日町市大字高島1724	草創文亀3(1563)蓮台山長楽寺と称 す。天正14(1586)曹洞宗に改宗か
了庵	耕文寺			糸魚川市大字大和川977	
如仲	慈雲寺			新発田市大字菅谷1820	
傑堂	増慶院			北蒲原郡黒川村黒川1449	
傑堂	本田寺			佐渡郡金井町 大字泉(牛込)	当初山号正荒山。その後現山号に改 む
傑堂	宝積寺			新発田市下中448	
傑堂	耕雲寺			北蒲原郡中条町西栄町 2-8	元真言宗
了庵	観音寺			北蒲原郡安田町大字保田 1722	
了庵	龍昌庵			西蒲原郡巻町巻甲2907	
普濟	少林寺			東頸城郡松代町蒲生3477	元真言宗
傑堂	東牧寺			北蒲原郡加治川村 大字貝屋308	現在本尊釈迦牟尼佛
傑堂	吉祥寺			中蒲原郡横越村大字小杉 1101	
傑堂	洞照院			五泉市大字笹堀807	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
天正13	1585	桂谷山	東岸寺	阿弥陀如来	千眼寺4世 泰政守陽 (太) (~1585)	
天正13	1585	繁勇山	宝鏡寺	阿弥陀如来	本田寺6世 湖山乗脛(豚) (~1615)	本間佐渡守の婦
天正14	1586	法華山	高德寺		華報寺8世 立山昌建 (~1586)	山崎竹藏
天正14	1586	龍澤山	長楽寺		雲洞庵15世 不改宗達 (~1604)	学雲天奕和尚
天正 年中	1573 ~86	鷺月山	禅林寺		耕文寺6世 説叟寿演 (~1586)	岩崎七右衛門
天正15	1587	仏法山	西光寺	聖観音	慈雲寺11世 快應宗間 (~1594)	
天正15	1587	諸岳山	長谷寺		増慶院2世 枢山梵守 (~1606)	
天正15	1587	補陀山	洞泉寺		中興本田寺19世 髓翁鶴禅 (~1721)	月 桂
天正16	1588	泰巖山	常勝寺	延命地藏	宝積寺8世 輝雄寿嗽 (~1632)	屋代左衛門 尉源常勝
天正16	1588	湖彦山	廣巖寺		耕雲寺16世 海応寿山 (~1615)	
天正16	1588	宝珠山	頼勝寺	聖観音	観音寺9世 器堂存朴 (~1599)	安田上総介 頼勝
天正16	1588	鶯宿山	千佛寺	阿弥陀如来	中興竜昌庵17世 志道義宣 (~1953)	巻城主 西山庄右エ門泰継
天正16	1588	龍鳳山	松泉山		少林寺2世 迦山存林 (~1652)	中興 秋山林霜
天正17	1589	金華山	法蔵寺	千手観音	東牧寺6世 洞室白龍 (~1606)	
天正17	1589	揚揮山	法幢寺		吉祥寺10世 万嶺門吉 (~1603)	阿部嘉右エ門
天正18	1590	医王山	東福寺		勸請洞照院4世 南勝文舜 (~1578)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(15)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享 2	昭和 10		
了庵	観音寺			北蒲原郡安田町大字小松 565	草創永正元(1504)
傑堂	種月寺	一	1	西蒲原郡弥彦村大字弥彦 2980	寺伝天正9(1581)歆喜山無量寺として開創。寛永18(1641)再建
了庵	正眼寺			南魚沼郡大和町今町532	萬治年中(1658~60)現在地へ移転
了庵	林泉寺			西頸城郡名立町大字折戸 1004	
傑堂	耕雲寺	二	2	村上市羽黒町4-8	当初から延享元(1744)頃までは山号村上山という。寺伝開創慶長元(1596)以降
天真	興泉寺			五泉市馬下1628-1	
天真	常安寺			栃尾市大字東中の俣512	
了庵	香林寺			三島郡出雲町尼瀬1280	伝承保年中(1081~83)三光観音の御堂建立、当寺の基となる。良寛得度の寺
了庵	吉蔵寺	○	1	小千谷市吉谷899	
了庵	安住寺	二	2	十日町市四日町1477	
傑堂	大蓮寺			佐渡郡赤泊村下川茂628	中興開山大蓮寺15世高嶽梵道(~1675)
傑堂	宝寿院	二	3	中頸城郡板倉町宮島166	
普濟	剛安寺			佐渡郡金井町大和2065	
傑堂	竜光寺			西頸城郡明立町 大字西浦生田	天正の頃(1573~91)慈濟閣あり。文禄2(1593)春芸現山寺号に改め、慶安元(1648)万翁を招いて開山とする
了庵	潮音寺			小千谷市高梨町706	元真言宗
傑堂	普濟寺			岩船郡朝日村大字下新保 2190	開創以前の草庵をこの年乙宝寺の小庵にかえて本堂とし改宗、元真言宗

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
天正19	1591	小川山	西照寺	阿弥陀如来	観音寺8世 才庵当芸 (~1589)	僧 吞 龍
天正19	1591	歓喜山	本高寺	無量寿仏 阿弥陀如来	中興種月寺13世 骨外芳徹 (~1657)	高 橋 舎 人
天正19	1591	石溪山	福巖寺		正眼寺4世 梅庵是桃 (~1608)	
天正19	1591	長星山	伝竜寺	十一面観音	林泉寺11世 的翁全孫 (~1613)	
天正 年間	1573 ~91	體真山	満福寺		耕雲寺14世 剛安寿金 (~1596)	板垣総兵尉 源 信 次 (~1662)
天正 年間	1573 ~91	護国山	永明寺	阿弥陀如来	興泉寺6世 昌山春林 (~1589)	作 久 間 信 輔
天正 年間	1573 ~91	稲荷山	東光寺	大日如来	常安寺4世 簾叟秀頓 (~1638)	
天正 年間	1573 ~91	海嶽山	光照寺		香林寺2世 果翁良珊 (~1604)	光 照 坊 (上杉謙信母)
天正 年間	1573 ~91	大雄山	円満寺		吉蔵寺7世 月峯伊吞 (~1577)	上 杉 謙 信
天正 年間	1573 ~91	天福山	真浄院		安住寺4世 明山義光 (~1591)	
天正 年間	1573 ~91	医王山	東林寺	薬師如来	大蓮寺8世 来叟梵徒 (~1600)	羽茂地頭本間氏
文禄元	1592	長嶺山	大廣寺		勧請宝寿院6世 然嶺存洞 (~1613)	2世 三 陽 巖 泰 (~1626)
文禄元	1592	医王山	大慈庵	薬師如来	剛安寺5世 臺翁存鏡 (~1642)	藍 原 秀 賀
文禄2	1593	林宝山	岩昌寺		竜光寺7世 万翁淳嶽 (~1665)	能 山 春 芸 和 尚
文禄3 以前	1594 以前	長慶山	龍泉寺		潮音寺4世 代庵正席 (~1594)	
文禄3	1594	義堂山	大儀寺	万靈 供養地藏	普濟寺6世 了然栄悟 (~1617)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(16)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
傑堂	増慶院			北蒲原郡中条町大字山屋15	
了庵	洞照寺			小千谷市川井町114	文永2(1265)伊豆田中の荘から本尊を移転、一堂宇建立
傑堂	永昌庵			南魚沼郡大和町大字芹田884	
了庵	顕聖寺			上越市東吉尾寺120	
傑堂	慈光寺			五泉市大字今泉光790	
了庵	真福寺			北魚沼郡小出町 大字四日町738	当初林正庵と称す。慶長19(1614)寺号に改め、元禄11(1698)現寺号に改称
了庵	信濃 禅秀院			中魚沼郡津南町外丸丙1727	城峰山大寶庵を相伝
傑堂	普濟寺			岩船郡朝日村字上野984	当村長楽寺、隣村桧原の仙洞庵と合寺して現山寺号となる
傑堂	耕雲寺			岩船郡神林村大字下助測1554	
天真	宝光寺			新発田市大字米倉1002	
天真	瑞雲寺			新発田市上新保1029	正保3(1646)瑞雲寺2世観翁全察を勧請して以来瑞雲寺末となる
傑堂	法音寺			新潟市西堀通7-1569	草創元亀・天正年間(1570~91)真言律院として開創
傑堂	吉祥寺			新潟市大測1846	草創文明元(1469)門察小庵を建立。大永5(1525)吉祥寺僧徒宗文ここに住す
傑堂	種月寺			西蒲原郡巻町稲島2411	
傑堂	種月寺			柏崎市大字吉井2174	元真言宗。建長寺73世久菴僧可(~1417)臨済宗清月寺となす
了庵	栖吉 普濟寺			小千谷市片貝町1182	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代		山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦					
文禄 3	1594	龍樹山	永徳寺	正観音	増慶院 4 世 用 安 紋 最 (~1675)	山屋茂田その他の 住民
文禄 3	1594	駒形山	妙高寺	愛染明王	草創開山清津天海 中興洞照寺 5 世 果翁良珊(~1604)	内ヶ巻城主 田 中 義 房
文禄 3	1594	赤城山	善応寺	上品下生 阿弥陀如来	永昌庵 3 世 寛 市 麟 泰 (~1616)	百 姓 茂 兵 衛
文禄 3	1594	祇園山	東林寺		顕聖寺12世 康 山 源 (元) 泰 (~1641)	
文禄 3 以前	1594 以前	宝泉山	龍門寺	延命地藏	慈光寺11世 衆 堂 天 甫 (~1595)	
文禄 4	1595	瑞泉山	林昌寺		真福寺 5 世 一 步 周 天 (~1598)	磯 部 忠 綱
文禄 4	1595	青松山	善玖院		禅透院 5 世 丹 寶 (室) 正 篤 (~1653)	脇 谷 八 郎 義 氏
文禄 年間	1592 ~95	茂林山	茗荷寺	地藏菩薩	普済寺 8 世 快 翁 存 慶 (~1614)	
慶長元	1596	寿栄山	長延寺	薬師如来	耕雲寺15世 蔓 室 長 延 (~1602)	
慶長元	1596	宝珠山	宗福寺		宝光寺 2 世 雪 岡 全 林 (岡)(~1602)	
慶長元	1596	寿延山	高德寺	薬師 瑠璃光如来	挿草雲洞庵16世 不 学 宗 吞 (~1617)	備 後 三 郎 高 徳
慶長元	1596	海嶽山	宗現寺		法音寺 6 世 不 巖 梵 学 (~1613)	高 橋 次 郎 左 門
慶長元	1596	大淵山	本興寺		吉祥寺 9 世 日 果 (杲) 良 吉 (~1633)	本 寮 門 察 和 尚 (~1520)
慶長元	1596	薬王山	海見寺		勧請種月寺11世 傑 宗 梵 英 (~1571)	桑原喜左(右)門
慶長元	1596	瑞巖山	清月寺		種月寺12世 體 巖 存 道 (~1605)	下 条 利 右 門
慶長元	1596	多宝山	光善寺		普済寺 5 世 直 翁 舜 朴 (~1607)	

1598) 開創・改宗曹洞宗寺院一覧表(17)

現在の派系	本寺	末寺数		現在所	備考
		延享2	昭和10		
傑堂	雲洞庵			南魚沼郡塩沢町 大字長崎1421	当初「千手山槻岡寺」と言ったが、再三の火災に会い、明治14(1881)再々建し、現山号とする
了庵	林泉寺			中頸城郡大潟町 下小船津浜1082	当初明照寺と称す。天明8(1788)浄照庵と改め、昭和17(1942)現寺号
傑堂	大蓮寺			佐渡郡小木町大字小木30	正嘉2(1258)臨済宗日山祖春(蘭溪道隆の高弟)撥草。6世高円快道の時末寺統合現山寺号に改称
天真	来迎寺			新発田市西蒲原郡名柄92	
傑堂	耕雲寺	一	1	岩船郡朝日村大字布部 3768	元当村小揚にあり、鷲霊峰松濤庵と称す。至徳2(1385)現山寺号の真言宗となり、慶長2(1597)曹洞宗に改む
天真	大輪寺	一	1	岩船郡山北町大字寒川 347	
傑堂	信濃小堀弥勒寺			上越市寺町1-7-8	
天真	宝光寺			新発田市山内1140	
如仲	慈雲寺			新発田市上荒沢491	延徳2(1490)僧恭月海甚庵を創建。中絶後、慶長3(1598)再建、現山寺号を称す。後、寺伝元和元(1615)中興
傑堂	吉祥寺			新潟市大湊998	草創文安5(1448)寿覚により永称庵として豊栄市高森に創立。その後現在地に移転し、慶長3(1598)曹洞宗となる
了庵	美濃龍泰寺	五	5	糸魚川市本町3-5	開創後一時衰微、元文3(1738)13世仏州弘海により中興。現在地に移転、再興
天真	宝光寺			新発田市中央町1-1-8	草創慶長元(1596)加賀大聖寺に創む。慶長3(1598)移封し玉窓寺と称す。寛永11(1634)現寺号、元禄5(1692)現在地に移転
傑堂	定明寺	二	2	加茂市五番町16-26	実際の中興開山は雪庭林秀(～1614)。元真言宗で龍沢山安慶寺という
了庵	東山寺			見附市新潟町386	当初宝生庵と称す。慶長の初め現地に移転、現山寺号に改称
石屋	徳昌寺			三島郡与板町字南中1221	本尊は直江兼統の念持仏という
傑堂	宝寿院	一	1	上越市寺町1-1-22	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

越後・佐渡戦国、安土・桃山時代（1491～

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

開 創 年 代	山 号	寺 号	釈迦以外 の 本 尊	開 山	開 基
日 本	西 暦				
慶長元	1596	水龍山	槻岡寺	雲洞庵19世 一 永 長 尊 (~1660)	槻 岡 外 記
慶長元	1596	瑠璃光山	浄照院	永平寺48世 成 山 台 明 (~1792)	林泉寺8世 泰 室 宗 慧 (~1578)
慶長元	1596	梵音山	海潮寺	聖観音 大蓮寺8世 来 叟 梵 徒 (~1606)	小木城主代官 原 土 佐 守
慶長2 以前	1597 以前	諏訪山	龍蔵寺	如意輪(正) 観音 来迎寺2世 端 雄 寅 州 (~1663)	2 世 一 漣 梵 易 (~1597)
慶長2	1597	月夜山	妙童寺	耕雲寺16世 海 応 寿 山 (~1615)	無庵宗悟大和尚
慶長2	1597	寒川山	大伝寺	千手観音 大輪寺6世 竹 巖 高 (香) 嫩 (~1634)	大屋太郎左衛門 大 蔵 七 右 衛 門
慶長2	1597	龍雲山	孝巖寺 (巖)	南 室 舜 (~1621)	
慶長3	1598	増頸山	泉蔵寺	虚空蔵菩薩 宝光寺2世 雪 岡 全 林 (~1602)	
慶長3	1598	大峰山	龍光寺	延命地藏 慈雲寺12世 栄 室 巖 盛 (~1615)	堀 丹 後 守
慶長3	1598	虎岳山	東陽寺	吉祥寺10世 万 嶺 門 吉 (~1603)	僧 寿 覚
慶長3	1598	単伝山	直指院	美濃竜泰寺13世 彭 山 正 仙 (~1610)	小林五郎左衛門
慶長元～ 3年の間	1596 ～98	太平山	瑞雲寺	宝光寺4世 嶽 翁 麟 鷲 (~1633)	新発田藩祖 溝 口 秀 勝 室
慶長 年間	1596～ 1614	鳳来山	耕泰寺	勸請定明寺4世 来 翁 香 薩 (~1603)	鳳来院殿玉谿好白 大 禅 定 門 (~1390)
慶長 年間	1596～ 1614	宝生山	天徳寺	稻荷尊天 東山寺7世 天 州 全 察 (~1606)	林昌院の翁道瑞居 士(小林六左衛門) (~1649)
慶長 年間	1596～ 1614	補陀山	観音寺	如意輪観音 中興徳昌寺33世 大 運 禅 山 (~1910)	佐 藤 新 左 工 門
慶長 年間	1596～ 1614	岡峯山	洞仙寺	宝寿院6世 然 嶺 存 洞 (~1613)	

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

渡の順序であるが、上越地区において、安土・桃山時代に建立された寺院数が戦国時代より一カ寺多いことが注目される。

従って戦国、安土・桃山時代、越後・佐渡曹洞禅扶植の密度も、前代と同様、下越、中越、上越、佐渡の順序で深められたことがわかる。さらに安土・桃山時代に入ると、上越地区に建立の寺院が、他地域に比してその数の割合が著しく多くなったことが知られる。

また両時代を通じて、一年間に五カ寺以上建立の年代をあげると次のようである。

五カ寺：弘治二年（一五五六）、天正三年（一五七五）、

天正十六年（一五八八）、文禄三年（一五九四）、

慶長年間（一五九六―一六一四）

六カ寺：永正五年（一五〇四）

七カ寺：永禄二年（一五五九）

一〇カ寺：天文元年（一五三二）

一一カ寺：元龜元年（一五七〇）、天正元年（一五七三）、

慶長元年（一五九六）

右の調査によると、十六世紀に入るや、急速に年間寺院

建立数が多くなり、特に、天文元年、元龜・天正の一五七〇年代および慶長年間の一五九〇年代がその頂点に達していることが知られる。これらの年代になぜ多くの曹洞宗寺院が建立されるに至ったかについては、各分野からの考究が必要であり今後の研究課題としたい。

次に各派系の勢力の動向について述べてみよう。まず戦国、安土・桃山時代において開創・改宗された曹洞宗寺院を各派系別に示すと、太原派一四七カ寺（内、傑堂系一四四、如仲系三）、通幻派二三カ寺（内、了庵系七九、普濟系一〇、天真系二九、石屋系五）、明峰、大徹、無底、源翁各派各々一カ寺である。また小本寺は、太原派三九カ寺（内、傑堂系四八、如仲系一）、通幻派三七カ寺（内、了庵系二七、普濟系二、天真系七、石屋系二）、明峰、大徹各派各々一カ寺である。

これらを前代の室町時代に比較すると、建立された寺院数は、太原派、通幻派それぞれ約三・三倍、三・四倍の多きに達し、小本寺は、太原派約一・三倍、通幻派約一・五倍に達し、通幻派が比較的多く増加している。だが少なくとも寺院数の上では、室町時代と同様、傑堂系の太原派が、

了庵・普濟・天真・石屋系を含む通幻派を圧倒する傾向にあったといえよう。

しかし、こうした中において、通幻派の勢力が前代以来、徐々に伸長しつつあったことが察知されるのである。

さて次に、以上の戦国、安土・桃山時代の曹洞禅の大勢を背景に、曹洞宗教団各派系の活動、発展について、小本寺を中心に具体的に述べてみよう。

二 太原派傑堂系の活動と発展

まず前稿論述の室町時代の場合と凡そ同じ区分に従って、教団の主流である太原派傑堂系―耕雲寺派の活動と発展から述べてみたい。

〈耕雲寺派の発展〉

戦国時代に入るや、耕雲寺八世固剛宗巖（一五〇九）は、明応七年（一四九八）、岩船郡朝日村大字大場潟に赴き、鮎川信濃守平清長の外護を得て普濟寺を開創した。普濟寺はその後、隆々たる発展をとげ、後世、戦国、安土・桃山時代の建立にかかる龍雲寺（新潟市沼垂東三―三四八）、瑞雲寺（岩船郡朝日村大字猿沢二七四〇）、佛沢寺（同郡

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

同村大字鵜渡路二〇〇二―一二）、醫泉寺（同郡同村大字岩沢九七九）、仲雲寺（村上市間島九六〇）、大儀寺（岩船郡朝日村大字下新保二一九〇）、茗荷時（同郡同村上野九八四）の七カ寺を含む一三カ寺の末寺を持つ小本寺となり、この地方の耕雲寺派の一大拠点となった。

ついで固剛は、永正六年（一五〇九）以前に、新発田市蔵光小館二七九八に治安元年（一〇二二）天台宗神応院として草創された寺院を曹洞宗に改宗し香伝寺と寺号を改めた（寺伝では天正年間――一五七三―九二――に改宗、固剛を開山に勧請）。その後、香伝寺は、加治城主佐々木氏、加治氏の庇護のもとに発展をとげ、後世、戦国時代開創の固雲寺（新発田市下石川一五七甲）を始め八カ寺の末寺を持つ小本寺として成長をとげた。

続いて耕雲寺九世天初蕊源（一五二四）は、岩船郡神林村大字指合九一二に入り、大永四年（一五二四）、光明寺を開創し、後世、戦国時代改宗の大同二年（八〇七）開創を伝える元真言宗神宮寺、大昌寺（加茂市加茂坂ノ下二八〇、末寺三カ寺を持つ小本寺）以下四カ寺の末寺を持つ小本寺となった。

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

ついで耕雲寺十世大翀玄甫（一五三三）は、天文元年（一五三三）以前に、岩船郡神林村平林の平林城主色部長真の招請を受けて真言宗の千眼寺を改宗して曹洞宗とした。後世、千眼寺は、戦国、安土・桃山時代開創の光浄寺（岩船郡神林村大字有明七三、末寺八カ寺を持つ小本寺）、大雄寺（同郡荒川町大字金座二二一四）、福源寺（同郡神林村大字南田中八三九）、西法寺（同郡荒川町大字春木山一四一五）、東岸寺（同郡同町大字荒島）の五カ寺を含む八カ寺の末寺を持つ小本寺として発展をとげた。

次にまた耕雲寺十一世三心宗伊（一五五七）は、天文九年（一五四〇）、本莊越前守繁長の招請を受け、村上市羽黒一一四三に、後世、三カ寺の末寺を持つ小本寺長楽寺を開創した。続いて三心は、岩船郡山北町大字府屋二二六に赴き、天文二十一年（一五五二）、高岩寺を開創した。高岩寺は、後世、戦国時代開創の長泉寺（岩船郡山北町大字大谷沢七九三）、耕太寺（同郡同町北中九八二）、泉龍寺（同郡同町大字鵜泊五四）の三カ寺を含む末寺六カ寺を持つ小本寺に成長した。

さて次に別稿において既述した（注2）中世越後の三

大名刹の一つとされた雲門寺（本寺東福院）の七世大梁宗棟は、天正元年（一五七三）、中頸城郡板倉町大字針三八に入り、竹呉某の外護により、立石寺三千坊の一とされる天台の古刹円樂寺を曹洞宗に改宗し、宝寿院と寺号を改めた。その後、宝寿院は、安土・桃山時代開創の、宝海寺（中頸城郡妙高村大字関山五〇八五甲）、大広寺（同郡板倉町宮島一六六、末寺三カ寺を持つ小本寺）、洞仙寺（上越市寺町一一一二、末寺一カ寺を持つ小本寺）の三カ寺を含む一〇（一一）カ寺の末寺を持つ小本寺となり、上越地区耕雲寺派曹洞禅の一大拠点となった。

以上が耕雲寺直末の小本寺の活動・発展の状況であるが、そのほか耕雲寺直末寺院として戦国、安土・桃山時代に開創・改宗された寺院は、大龍寺（村上市瀬波六六〇）、佛照寺（岩船郡山北町字浜新保二八一）、海蔵寺（同郡神林村七湊一七九八）、広嚴寺（北蒲原郡中条町西栄町二一八）、満福寺（村上市羽黒町四一八、末寺二カ寺を持つ）、長延寺（岩船郡神林村大字下助測一五五）の六カ寺があげられる。

このように耕雲寺直流派は、下越地区の北部を中心に、

中部・南部に及び、さらに上越地区の中部にまで進出して発展をとげたのである。

次に耕雲寺派の種月寺系の活動について小本寺を中心に述べてみよう。

この時代の種月寺直末の開創・改宗寺院としては、まず永正十六年（一五一九）、種月寺六世麗天宗杲（一五六五）によって開創された慶福寺（柏崎市安田六四九三）がある。慶福寺は安田城主安田上総介の菩提所となり、後世、末寺一カ寺を持つに至っている。また麗天宗杲は、大永六年（一五二六）、西蒲原郡吉田町鴻巣二二一六に赴き、真言宗寺院を曹洞宗に改宗し福厳寺を開創した。福厳寺は、後世、末寺二カ寺を持つ小本寺となった。

これよりさき種月寺七世樂崇文韶（一五三八）は、永正年間（一五〇四～一二）に、黒滝城主照田越前守吉伝の招請により、西蒲原郡分水町大字渡部一九五に吉伝寺を開創した。吉伝寺は、後に吉田寺と改称され、末寺一カ寺を持つ小本寺となった。

さらに安土・桃山時代に入り、種月寺十三世骨外芳徹（一六五七）は、天正十九年（一五九一）、高橋舎人の外護

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

を得て、後世、末寺一カ寺を持つ本高寺（西蒲原郡弥彦村大字弥彦二九八〇）を開創した。

そのほか戦国、安土・桃山時代において、種月寺の直末で末寺を持たぬ寺院として西福寺（西蒲原郡巻町大字赤鋸四六一）、海見寺（同郡同町稲島二四一一）、清月寺（柏崎市大字吉井二二七四）の三カ寺が開創または改宗された。

このように見てくると、この時代においては、種月寺系は三カ寺以上の末寺を持つ小本寺はなく、耕雲寺直流派に比べるとその活動はふるわなかったが、佐渡において、別稿で述べた種月寺を本寺とする本田寺、大蓮寺系の活動がさかんであったことは注目すべきである。

前者の本田寺については、戦国時代には玉泉寺（佐渡郡佐和田町大字中原三八五）、大慈院（同郡同町大字上長木四一一）、投瑯寺（同郡金井町中興二四七四）、興源院（同郡同町大字中興乙七〇〇）の四カ寺が直末寺院として開創され、安土・桃山時代に入ると、観音寺（同郡赤泊村大字徳和五三四一一）、宝鏡寺（同郡佐和田町八幡一六七九の子）、洞泉寺（同郡金井町大字泉〈牛込〉）の孫末、直末寺院が開創された。後者の大蓮寺については、戦国時代には、千

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

光寺（同郡羽茂町羽茂本郷一七一六一二）、法幢寺（同郡畑野町三宮二五七）の二カ寺が直末・孫末寺院として開創され、安土・桃山時代には、円満寺（同郡羽茂町大字大石一〇七五）、東林寺（同郡赤泊村下川茂六二八）、海潮寺（同郡小木町大字小木三〇）の三カ寺が直末寺院として開創されたのである。

〈慈光寺派の活動〉

次に慈光寺派の活動について具体的に述べてみよう。

まず慈光寺派直流として、慈光寺七世久庵貞可（一五〇九）が、明応二年（一四九三）、南蒲原郡の田上の里に正法寺を開創した。その後、正法寺は、永正元年（一五〇四）大鹿新田へ、ついで慶長二年（一五九七）現在地の新津市秋葉一―九―に移転した。そののち戦国時代開創の西善寺（中蒲原郡小須戸大字矢代田四三八八）、安土時代開創の高巖寺（新津市金津二七九）、千昌寺（中蒲原郡小須戸町水田一七九六）をはじめ八カ寺の末寺を持つ小本寺として下越地区の慈光寺派曹洞禅の一大拠点となった。

ついで戦国時代において、慈光寺八世堅室宗玉（一五二八）は文亀二年（一五〇二）五泉市川瀬五一八に願成寺

を開創し、同寺十三世鑑室玄亀（一六〇九）は、大永五年（一五二五）、加茂市大字黒水六八六の大同元年（八〇六）草創を伝える真言宗寺院賢聖寺を曹洞宗に改宗した。また慈光寺十四世勝峰正運（一六二九）は天文元年（一五三二）中蒲原郡村松町牧一八八一に福昌寺を、同寺十二世門嶺長儒（一五九九）は天文年間（一五三二―五四）北蒲原郡聖籠町大字次第浜三〇五六に永泉寺をそれぞれ開創した。ついで慈光寺僧心光円月は元亀元年（一五七〇）新津市古津六〇一に観音寺を開創したが、寺号は慶長二年（一五九七）広大寺に改められた。

続いて安土時代には、慈光寺十世一山宗倍（一五八二）が天正九年（一五八一）以前に中蒲原郡村松町大字南田中一二五六に延命寺を復興し、天正九年には中蒲原郡村松町大字熊沢二三八に清光寺を開創した。また桃山時代に入つて、同寺十一世衆堂天甫（一五九五）は文禄三年（一五九五）以前に五泉市大字今泉甲七九〇に龍門寺を開創したのである。

右の慈光寺派主流の諸寺院のうち、願成寺は、戦国時代開創の洞照院（五泉市大字菅出一〇〇八、末寺三カ寺を有

する小本寺)、忠山寺(五泉市大字今泉七七)、安土時代開創の宗堅寺(同市熊代甲一九八)をはじめ現在四カ寺の末寺を持つ小本寺であり、また延命寺は末寺一カ寺を持つ小本寺である。

右のように慈光寺直末の諸寺院は、大本寺慈光寺の所在地中蒲原郡村松町を中心に、その周辺の五泉市、新津市、加茂市等に開創され、下越地区中央部に発展をとげた。

なお慈光寺直末寺院のうち室町時代に開創された寺院が、この時代に、小本寺として隆々と発展したことは注目に値しよう。

まず宝徳二年(一四五〇)開創の安養寺(中蒲原郡村松町甲五七九七)は、戦国時代に、長寿院(同郡同町上戸倉一三五八)のほか法幢寺(同郡同町下大蒲原一七〇八)、清水寺(同郡同町甲六三五)、永福寺(同郡同町笹野町甲一四四一)の計四カ寺の末寺を持つ小本寺となった。つぎに文正元年(一四六六)開創の長禅寺(南蒲原郡下田町大字森町八四〇)は、戦国時代に、栄雲寺(同郡同村原八九四)、長見寺(同郡同村新屋五六二)のほか常福寺(同郡同村牛野尾一五六)、安土時代に、大雲寺(加茂市上土倉

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

字天ヶ沢一三五)、善興寺(同市高柳字谷地六三二)の合計五カ寺の末寺を持つ小本寺に成長した。また文明年間(一四六九―八六)開創の吉祥寺(五泉市大字橋田戊八八三)は、戦国時代に、岩松院(同市大字橋田巳四二九)、円通寺(中蒲原郡横越村木津五七八)のほか海龍寺(西頸城郡能生町大字藤後六三四)、桃山時代に、法幢寺(中蒲原郡横越村大字小杉一一〇二)、本興寺(新潟市大湊一八四六)、東陽寺(同市大湊九九八)の合計六カ寺の末寺を持つ小本寺として発展したのである。

次に慈光寺派雲洞庵系の活動について述べてみよう。

まず雲洞庵五世天巖真性(一一五〇―)は、明応二年(一四九三)、南魚沼郡敷神村に洞源寺を開創した。そのち洞源寺は、明暦年間(一六五五―五七)に現在地南魚沼郡大和町九一三に移転した。

ついで雲洞庵九世不點存可(一一五四―)は、明応八年(一四九九)、南魚沼郡湯沢町中里の臨済宗関興庵末の随所庵を曹洞宗に改宗した。随所庵は、元禄年中以後、瑞祥庵と改名され、そのち末寺一カ寺を持つ小本寺となった。続いて不點は、天文十五年(一五四六)、坂戸城主城之多

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

良亮長の外護により、明応二年（一四九三）長翁存茂によって禅寺となった太宗寺を曹洞宗に改宗した。太宗寺は江戸時代に総雲寺（南魚沼郡六日町大字大月一七四六）と改名され現在に至っている。

また雲洞庵十一世大棟寿椿（一五〇五～一八三）は、大永元年（一五二二）、北魚沼郡堀之内町堀之内四〇二七甲に普賢寺を開いた。同寺は、桃山時代に、天宗寺（同郡同町大石六八七）、普門院（同郡守門村須原五六〇）の末寺二カ寺を持つ小本寺となった。

次に雲洞庵十四世礫翁守的（一六〇四）は、永禄五年（一五六二）、北魚沼郡川口町大字中山二八〇の臨江庵の開山となった。臨江庵はのち宝暦年間（一七五一～一六三）以後、林興庵と改称された。ついで同庵十二世壑翁玄林（一五七九）は、長尾房景・政景の招きにより、文明三年（一四七一）臨済宗関興庵三世存天從竜開創の法林庵を、天正三年（一五七五）曹洞宗に改宗して開山となり、のち寺号を宝林寺（南魚沼郡塩沢町舞子一五六四）と改名した。

また雲洞庵十五世不改宗達（一六一〇）は、天正十四年（一五八六）、文亀三年（一五〇三）草創を伝え琵琶城

主長尾義景開基の寺院長楽寺（十日町市大字高島一七二四）の開山となり、これを曹洞宗に改宗した。ついで同庵十九世一永長尊（一六六〇）は、慶長元年（一五九六）、槻岡外記の庇護により南魚沼郡塩沢町大字長崎一四二一に槻岡寺を開創したのである。

以上この時代の雲洞庵直末寺院の動静であるが、他の派系に比べてその活動範囲は三魚沼の地方に限定されて比較的狭く、また末寺を持つ小本寺寺院は瑞祥庵、普賢寺の二カ寺にすぎないのが特長である。

ただし室町時代に開創された雲洞庵直末寺院の福勝寺（新発田市中央町二二二七）が、戦国時代に、養福寺（同市則清一五一六、末寺二カ寺を持つ小本寺）、相円寺（同市中央町二二二五）、円福寺（北蒲原郡豊浦町大字下中ノ目七二、元浄土宗）、安土時代に、正竜寺（新発田市中曾根町三一三一七）、仲山寺（北蒲原郡豊浦町字本田王二五〇）の合計五カ寺を持つ小本寺として新発田市を中心に北蒲原郡地方に発展したことは注目される。また室町時代に佐渡で曹洞宗として再興された直末寺院晃照寺（両津市大字河崎二八三）も、安土時代に、末寺大栄寺（同市羽

吉三二九)を持つに至っている。

以上は、戦国、安土・桃山時代の太源派―傑堂系諸派の活動であるが、そのほか如仲系の活動および通幻派の活動の一部について、別稿の室町時代の項において関連して述べたので、それらについては全て別稿にゆずりたい。

三 通幻派―了庵系の展開

さて越後の戦国、安土・桃山時代の曹洞宗教団において、太源派―傑堂系に拮抗して、それを凌ぐ活動を展開したのは通幻派―了庵系である。

通幻派―了庵系は、周知のように、相模(神奈川県)大雄山最乗山(南足柄市大雄町一一五七)を大本寺とし、越後においては、既に前代において、(一)下野(栃木県)瑞光寺派―林泉庵・真福寺系、(二)上野(群馬県)雙林寺派―吉蔵寺・林泉寺・定正院・普広寺系、(三)相模松石寺派(天巽派)―龍穩院・曹源寺系、(四)陸奥(福島県)長祿寺派―観音寺系、(五)下野大中寺派(快庵派)―顕聖寺系に分派して扶植し、次代に展開する布石を完了していた。

つぎに右の各派・系について、その後のこの時代の活動

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

について述べてみよう。

(一)

瑞光寺派は、既に、林泉庵系―永林寺・宝泉寺、真福寺系―法持寺・林昌寺の諸寺院が中越地区・北魚沼の地に開創されていた。

ところで南魚沼郡大和町に、貞治元年(一二三六)楡井孫九郎開基、草創の真言宗巖松庵が、享徳元年(一四五二)現在地北魚沼郡小出町大浦一七四に移り、西福寺と改名され、文明二年(一四七〇)に林泉庵・真福寺各開山法山謙正(一四〇七―九五)が赤城山と冠号し曹洞宗となした。その後、法持寺二世芳室祖春(一一五五四)が天文三年(一五三四)招かれて西福寺の開山となった。当時の開山堂は鎌倉時代禅宗仏殿造りで安政四年(一八五七)完工、天上及び四面彫刻、また本堂襖画十六面は石川雲蝶作で県文化財に指定されている。ついで西福寺二世空山春也(一一五六四)は、天文四年(一五三五)招請されて浄光寺の開山となったが、その後、伽藍は火災に会い、享保六年(一七二二)現在地南魚沼郡大和町門前に再建されて今日に至っている。

(二)

上野雙林寺は、了庵慧明の法孫月江正文（一四六二）が開山であるが、月江の法孫雙林寺三世曇英慧応（一四二四―一五〇四）は、まず明応二年（一四九三）、坂戸城主長尾能景の開基になる吉蔵寺（小千谷市桜町三七五七）の開山となり、翌年祝国開堂の儀をあげた。その後、同寺は火災に会い堂宇は全焼したが、享保十八年（一七三三）現在地に移転し本堂が再建された。吉蔵寺は、寺域広壮で要衝の地にあり、寺宝に吉蔵寺本『正法眼蔵聞解』十三卷等が現存するところから当地の禅学の府であったことが推測される。ついで吉蔵寺三世大通文斎（一五二二）は、八石城主毛利浄広の開基浄広寺（柏崎市大字善根七四七一）に招かれて開山となった。浄広寺は、その後、戦国時代に臨済宗より改宗した能満寺（同市大字東長島二二六二）、桃山時代に開創された普広寺（同市山室七二六）以下五カ寺を持つ小本寺に成長した。また吉蔵寺七世月峯伊吞（一五七七）は、天正年間（一五七三―九一）、上杉謙信開基とされる小千谷市東吉谷八九九の円満寺の開山となった。次に曇英慧応は、明応五年（一四九六）、長尾能景が開基、

建立した林泉寺（上越市大字中門前二九五）を開創し、翌年祝国開堂の儀をあげ、師の一州正伊（一四一六―八八）を勧請して開山とした。ついで林泉寺三世龍室元（玄）光（一五一二）は招かれて中頸城郡柿崎町大字芋島二七二七の楞嚴寺の開山となった。寺伝によれば、同寺は、天文三年（一五三四）、柿崎景家が、林泉寺七世天室光育（一五六三）を請じて密教寺院東泉寺跡を復興して曹洞宗に改宗したとされている。また林泉寺十一世の翁全孫（一六一三）は、天正十九年（一五九二）、伝竜寺（西頸城郡名立町大字折戸一〇〇七）を、同寺九世泰室宗恵（一五七八）は慶長元年（一五九六）、浄照院（中頸城郡大潟町下小船津浜一〇八二）をそれぞれ開創、開基した。

かくして林泉寺は、この時代に上杉謙信の帰依および長尾・上杉家の菩提寺であることを背景に隆々たる発展をとげ、直末一三（一一）カ寺、門葉一九カ寺を持つ小本寺となった。その後、林泉寺は、上杉景勝が、慶長三年（一五九八）会津へ、同六年（一六〇一）米沢へそれぞれ移封となるや、これに従って移転し、ここに高田林泉寺と米沢林泉寺（山形県米沢市林泉寺町林泉寺一―二―三）に分立す

るに至った。両寺の歴住世代は十一世溪堂古曹（一六〇五）までは同じく、十二世以下はそれぞれ独立した世代となっている。なお米沢林泉寺の末寺は、常閑寺（米沢市関町一〇二）、宝積寺（福島市舟場三）以下三〇カ寺に及んでいる。

ところでこれよりさき、明応三年（一四九四）十月、鎌倉扇谷上杉管領定正は山内上杉顕定と対陣中、戦死したが、林泉寺二世曇英慧応の直徒敬天可俶（一五二八）は、明応年間（一四九二―一五〇〇）、上杉定正の菩提のために、上杉謙信の助援を得て現在の長岡市鷺巣町三六〇に一寺を建立し、定正の名に因んで定正院と名づけ、師曇英を勧請して開山とした。さらに法兄、長老を二世、三世に勧請して先住となし、自らは四世住持に位置して法幢の隆盛を期した、とされている。その後、定正院六世保山恕祝（一五六三）は、天文八年（一五三九）に、堀丹後守開基の常福寺（村上市羽黒町四一）の開山となり、同院七世欠（感）応円達（一五九八）は、弘治二年（一五六六）、龍昌寺（長岡市六日市町一七五三）を開創したが、そのち定正院は、さらに阿弥陀寺（同市濁沢町七九二）、定明寺（同市定明

町一五六）、泉竜寺（中魚沼郡中里村田沢甲一九六一）の末寺を持つ小本寺に成長した。

ところで寛正元年（一四六〇）、柏崎市北条村の深沢城主村山正勝は堂宇を建立し、曇英慧応の法嗣俊岳忠哲が招かれて住持となった。俊岳は、永正元年（一五〇四）、鯖石庄北条郡北条字城ノ下（現柏崎市大字北条七八二）に伽藍を移し、普広寺と公称、師曇英慧応を勧請開山とし自らは二世位に住した。また俊岳は、明応七年（一四九八）、狭霧城主中務力丸慶忠の招請により、三島郡和島村根小屋五七一に繁慶寺を開創した。元和二年（一六一六）普広寺十世一翁吞香はその後廃寺となった同寺を中興したが、現在の本堂は、文政七年（一八二四）建立のものである。ついで普広寺三世曇芳文誉（一五二三）は、永正六年（一五〇九）に安住寺（柏崎市石曾根三二二六）、同八年（一五一）に寿慶寺（同市大字矢田一九二三）をそれぞれ開創し、また天喜の頃（一〇五三―五八）よりあった竜沢寺の廃刹を、同十年（一五一三）、毛利高広を開基として復興し曹洞宗花隠寺とし、同寺は後に花栄寺（同市木沢三六三）と改められ今日に至っている。このうち安住寺は、四

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

世明山義光（一五九一）、天正年間（一五七三―九一）開創の末寺真浄院（十日町市大字四日町一四七七）を持つ小本寺であり、真浄院は江戸時代に四世波巖寿清（一六五七）開創の長泉寺（同市中条乙三二四）、六世朴巖道淳（一六四〇―一七二三）中興の神宮寺（同市大字四日町一三〇〇）の末寺二カ寺を持つに至っている。また普広寺五世器州秀道は、天文三年（一五三四）、八石城主毛利周広を開基とし、天台宗の旧跡を復興して曹洞宗周広院（柏崎市大字与板七〇七）となし、普広寺四世竜山文経は、天文十八年（一五四九）、同じく天台宗寺院を改宗して曹洞宗大光寺（同市大字水上一八の乙）とした。その後、普広寺七世人安全佐（一五七六）は、永禄九年（一五六六）に北魚沼郡守門村大字須原五七八に円明寺を、また同年小千谷市小栗田九六一に潮音寺をそれぞれ開創している。このうち潮音寺は、善祥寺（小千谷市山谷）、長楽寺（同市千谷一〇三三）、竜泉寺（同市高梨町七〇六）の末寺三カ寺を持つ小本寺として成長した。

以上、雙林寺直末寺院の雄、吉蔵寺・林泉寺・定正院・普広寺の四カ寺およびその法流の活動を述べたが、このほ

か直末寺院としては、妻有地方（十日町市・中魚沼郡）に、別稿既述の長禄元年（一四五七）曇英慧応開創の広大寺（十日町市大字下組三六五三）、弘治二年（一五五六）雙林寺九世奪州呑興（一五六五）開創の観泉院（同市大字馬場戊一一二）、天正八年（一五八〇）雙林寺十三世大通関鉄（一六三三）開創の宝泉寺（同市小泉一〇五一）がある。かくして雙林寺派は、中越・上越両地区を中心に、長尾・上杉氏の外護のもとに了庵系の他派を圧して隆々たる発展をとげたのである。

さて越後の雙林寺派には、さらに上野（群馬県）にある雙林寺の直末寺院を本寺と仰ぐ派系がある。それは上野玉泉寺（群馬県利根郡月夜野町大字下牧二三九一）と同じく上野嶽林寺（同県同郡同町大字月夜野一六九二）の二派である。前者の玉泉寺三世大潮浮船は、永正元年（一五〇四）、中蒲原郡村松町大字河内一四三〇に後世、玉泉寺以下末寺二カ寺を持つに至った永谷寺を開創した。また玉泉寺五世宣州元助は、天文三年（一五三四）、臨済宗東山寺（南蒲原郡栄町大字小滝三一一）を中興して曹洞宗に改め、雙林寺二世一州正伊以下四世までを勧請して自らは五世を称し、

法幢の隆昌を期した（東山寺の沿革については別稿「越後の臨済禅の扶植」の章参照）。即ちまず東山寺九世直英寅佐は、仁安の頃（一一六六―一六八）の創立を伝える観音寺、のち護国寺・最明寺と改名・呼称された天台宗寺院を、天文元年（一一五三）以後に復興して曹洞宗に改宗し、西明寺（三条市吉田一四一）と公称した。ついで天正六年（一五七八）以前に広川寺（見附市広川町一六七三）、天正八年（一五八〇）に妙雲寺（同市坂井町二三四二）、そして慶長年間（一五九六―一六一四）に天徳寺（同市新潟町三八六）が開創された。かくて東山寺はその後の末寺も加え、七カ寺の末寺を持つ小本寺として発展をとげた。

つぎに後者の嶽林寺二世天慶宗積は、永承年中（一一〇四―一五二）源頼義の寄進を伝える阿弥陀如来をまつる旧伽藍を、大永年間（一五二一―一五二七）に、現在地南魚沼郡大和町大崎三四五五に移して曹洞宗に改め龍谷寺を開創した。その後龍谷寺は、宝暦年中（一七五一―一六三）現本堂に再建、そののち末寺一カ寺を持つ小本寺となった。境内の大観音堂は、昭和四十年完成した印度グプタ朝様式の近代的禅建築の代表とされている。

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

（三）

相模松石寺（天巽派）の活動については、既に別稿において前代に敷衍して述べたのでこれにゆずることにしたい。

（四）

陸奥長祿寺派―観音寺系の活動についても前項と同じく既に前代に敷衍して述べたが、応仁二年（一四六八）、観音寺二世樹山庭柏（一一五二）によって天台宗より改宗された朝日寺（三島郡越路町大字朝日五三一）のこの時代における活動は注目される。

室町時代に朝日寺は、享徳元年（一四五二）開創の竜雲寺（柏崎市黒滝一五二二）、文明年間（一四六九―一八六）開創の洞照寺（長岡市村松町四二〇三）の末寺二カ寺を持っていたが、戦国時代に入り、永禄二年（一五五九）、のちに末寺一カ寺を持つ妙智寺（柏崎市鯨波三―七―三三）が開創され、永禄六年（一五六三）には、朝日寺九世南嶺全継によって満光寺（三島郡越路町大字不動沢六六六）が真言宗より曹洞宗に改宗され、それぞれ朝日寺の末寺となった。

右の諸寺院のうち洞照寺は、既に室町時代開創の香林寺

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

（長岡市雲出町一五二七）を末寺とし、また文禄三年（一五九四）洞照寺五世果翁良珊（一六〇四）改宗の妙高寺（小千谷市川井町一一四）を末寺とし、以下末寺四カ寺を持つ小本寺として活動した。右の洞照寺末香林寺は、天正年間（一五七三～九一）開創の、後世良寛得度の寺となった光照寺（三島郡出雲崎町尼瀬一二八〇）を末寺としている。

このように朝日寺を小本寺とする門葉は、この時代に長岡を中心に中越地区に発展をとげた。

（五）

下野大中寺派（快庵派）―顕聖寺系についても、既に別稿において前代に敷衍してその概略は述べたので、それにゆずりたい。ただ早く応永年間（一三九四～一四二七）に大徹派によって開創された耕文寺（糸魚川市大字羽生一〇五）は、明応三年（一四九四）顕聖寺三世雪巖光欽の法嗣層嶺玄岱（一五二六）によって中興されたが、その後の活動には注目すべきものがある。

まず耕文寺二世大盛樹英（一五三六）は、大永二年（一五二二）、糸魚川市大字上覚七九八に普濟寺を、ついで天

文元年（一五三二）竜光寺（西頸城郡能生町大字下小見一七二）をそれぞれ開創した。また同寺六世説叟寿演（一五八六）は、天正年中（一五七三～八六）糸魚川市大字大和川九七七に禅林寺を開創し、耕文寺は後世六カ寺の末寺を持つ小本寺として成長した。

右の諸寺院のうち竜光寺は、七世万翁淳嶽が文禄二年（一五九三）開山となった岩昌寺（同郡名立町字西蒲生田）をはじめ末寺三カ寺を持つに至った。その末寺のうち東陽寺（同郡能生町大字木浦一九九二八）は天平年間（七二九～四八）の開創を伝え、中絶後、寛永年中（一六二四～四三）再興、真言宗より曹洞宗に改宗された寺院だが、戦国時代、永正元年（一五〇四）開創の宝林寺（同郡同町大字溝尾九六三）を末寺に持つに至っている。

かくて耕文寺の門流はこの時代に糸魚川を中心に上越地区に教線を拡大した。

次に越後における大中寺派には顕聖寺のほかに、大中寺六世快叟良慶（一五七六）が元亀元年（一五七〇）上越市町三一四～四二に開創した光栄寺がある。

また大中寺の本寺、最乗寺十七世華叟正尊開山の美濃（岐

阜県) 竜泰寺の一派がある。即ち天正二年(一五七四) 竜泰寺十一世大洞正桃開創の海隣寺(上越市寺町三一四―三五九)、同寺十三世彭山正仙開創の直指院(糸魚川市本町三一五)がそれである。前者の海隣寺は、後世三(五)カ寺の末寺を持ち、後者の直指院は、四世蘭叟伝栄(一五八三)が天正元年(一五七三)開創の禅雄寺(同市大字中浜一三〇七)、また天正十一年(一五八三)真言宗より曹洞宗に改宗した安福寺(同市根小屋)以下五カ寺の末寺を持つ小本寺になっている。

(六)

さて次に、以上のほか通幻派―了庵系の別派として、美濃竜泰寺―上野茂林寺―武蔵慶徳寺―信濃貞祥寺の流れを汲む信濃(長野県)禅透院五世丹室(宝)正鷲(一六五三)が、文禄四年(一五九五)、善玖院(中魚沼郡津南町外丸丙一七二七)を開創した。

また下総総寧寺―相模海蔵寺―常陸松学寺―常陸管天寺の流れを汲む上総(千葉県)長興院二世長翁昌(存)宗は、天文六年(一五三七)、臨済宗で上杉氏の菩提寺・祈願所であった普濟寺(長岡市栖吉三〇三九)を曹洞宗に改宗し、

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

また安善寺(同市神田町一―四―一〇)を開創した。前者の普濟寺の五世直翁舜朴(一六〇七)は、慶長元年(一五九六)、光善寺(小千谷市片貝町一八二)を開創し、普濟寺は後世五(四)カ寺の末寺を持つ小本寺として成長をとげた。

かくして県外に本寺を仰ぐ了庵系の信濃善透院・上総長興院の一派は、いずれも中越地区に扶植、伝播したのである。

四 通幻派―普濟系の活動

次に通幻派―普濟系は、別稿で既述したように、室町時代において越後に扶植した最初の通幻派で、その寺院は中魚沼郡川西町中屋敷一六三の長福寺であったが、前代において、長福寺三世笑顔舜葩(一四四一)は、嘉吉元年(一四四一)に東光寺(中魚沼郡中里村倉俣甲一四五二)を開創していた。この時代に入って、長福寺四世巖室文庭(一五七三)は、永禄三年(一五六〇)南魚沼郡六日町麓一五九に富福寺を開創したが、後に真浄寺と寺号が改められた。また巖室は、天正元年(一五七三)、東頸城郡松

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

之山町藤倉六六〇に正法寺を開創した。ついで長福寺五世鳳山林鷲（一五九〇）は、元龜二年（一五七二）に竜清庵を開創したが、のち同庵は延宝五年（一六七七）現在地南魚沼郡六日町大字四十日三九六に移転され、宗竜寺と改称された。

続いて長福寺六世伝室存盛（一六一二）は、永禄十一年（一五六八）清竜寺（中魚沼郡川西町霜条五九〇）を、天正四年（一五七六）少林寺（東頸城郡松代町大字松代二一三六）をそれぞれ開創し、天正七年（一五七九）長徳寺（中魚沼郡川西町友重乙一七〇甲）を密教寺院（真言・天台宗）より曹洞宗に改宗した。このうち少林寺の二世迦山存林（一六五二）は、天正十六年（一五八八）、真言宗松泉寺（東頸城郡松代町蒲生三四四七）を曹洞宗に改宗し、少林寺の末寺とした。

かくして長福寺は、早くこの時代に、中・南魚、東頸城三郡にまたがって七カ寺の末寺を持つ小本寺として普済系曹洞禅の宣揚に活躍したのである。

次にこの時代において、普済系の別派が佐渡に最初に扶植されたことは注目される。即ち両津市大字加茂歌代六六

九の江西院四世然翁宗廓は、天文十八年（一五四九）、歌代地頭渋谷直清（一五七八）を開基として富月寺（同市加茂歌代―北河内―三七八三）を開創し、陸奥（青森県）宗徳寺三世宝山正珍（柏崎市香積寺開山竜伝慧金の法嗣）を勧請して開山となした。ついで富月寺三世昌山寿繁は、両津市秋津三六七に、永禄二年（一五五九）、長福寺を開創して末寺となし、のちに当寺は享保元年（一七一六）薬師寺と改められた。かくて富月寺は後世末寺二カ寺を持つ小本寺となった。

さらにさきに文明五年（一四七三）香積寺（柏崎市西本町三―四―三）の直末として佐渡に扶植した香積寺六世通山長徹開創の剛安寺（佐渡郡金井町吉井本郷）は、永正年中（一五〇四―二二）の同寺四世靠山永虎により中興された利済庵（両津市大字椿三四〇）、天文二十三年（一五五四）創立、明暦元年（一六五五）剛安寺七世骨州從徹の時より剛安寺末になった医福寺（佐渡郡金井町吉井本郷二三七二）、剛安寺五世台翁存鏡が文禄元年（一五九二）開創した大慈庵（同郡同町大和二〇六五）、そのほか元和五年（一六一九）開基の総源寺（同郡相川町下山之神町三）、元和元年（一

六一五) 建立の高安寺(同郡同町下寺町一〇)の末寺五カ寺の小本寺として発展した。この末寺のうち総源寺は江戸時代初期に妙音寺(同郡同町奈良町)、長泉寺(同郡同町下山之神三九)、総鏡寺(同郡佐和田町沢根籠町二三一一)の末寺三カ寺を持つ小本寺となっている。

かくてこの時代の佐渡における普済系の曹洞禅は富月寺・剛安寺の二小本寺を中心に発揚されたのである。

五 通幻派―天真系の活動

この時代の通幻派―天真系の曹洞禅については、既に別稿で前代における(一)天輪寺、(二)高安寺、(三)興泉寺各派系の活動を中心にその概略を述べたので、ここではこれらについて敷衍したあと、ほかの派系の活動について述べることにしたい。

(一)

まず天輪寺の末寺洞雲寺(柏崎市常盤台五一)の三世齡室建壽は、明応四年(一四九五)、柏崎市久米七三七―一に普伝院を開創し、ついで洞雲寺四世然室祖廓は、延暦年中(七八二―八〇六)最澄建立を伝える常福寺を、天正

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展(竹内)

十一年(一五八三)、現在地柏崎市東本町一―九一―一〇に移転し、天台宗より曹洞宗に改宗した。また上杉謙信開基、泰簾門察の開山で転輪寺末の常安寺(栃尾市谷内二―七―七)の四世簾叟秀頓は、天正年間(一五七三―九一)に東光寺を栃尾市大字東中の俣五一二に開創し、共々天真系転輪寺派の禅風を挙揚した。

(二)

次に越前靈泉寺を本寺と仰ぐ高安寺(上越市寺町三―九一―三九)の三世天雪梵吉は、天文二十年(一五五二)、上越市大字西横山に竜興寺を開創し、門派の伸長をはかった。

(三)

ついで常陸金竜寺を本寺とする興泉寺(五泉市錦町二―三五)は、大輪寺・安穩寺・永明寺の末寺を持つ五泉市の小本寺だが、末寺の大輪寺は、慶長二年(一五九七)六世竹岩高嫩(一―一六二六)開創の大伝寺(岩船郡山北町大字寒川三四七)、および徳岩寺(北蒲原郡中条町羽黒二三〇〇)、大慶寺(新発田市滝谷一九二二)の三カ寺の末寺を持つ小本寺として成長をとげた。

さて以上のほかに、この時代に活躍した天真系として、

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

妙高庵（總持寺山内五院、通幻寂靈の塔頭）―越前慈眼寺―上野長源寺の流れを汲む信濃興禪寺（長野県上水内郡信州新町牧田中一八八九）一派の活動がある。

まず信濃興禪寺四世徳翁祖昌は、明応三年（一四九四）、天台宗靈源寺（糸魚川市中谷内七五一）を曹洞宗に改宗した。ついで興禪寺五世仲翁順興（一五四六）は、これまで大徹派であった名立寺（西頸城郡名立町大町二七〇）を、永正十七年（一五二〇）、中興開山して通幻派―天真系とした。名立寺は、その後、三世大応春理が、天正六年（一五七八）、大徹派から天真系に中興した善照寺（同郡同町大字丸田一〇二六）、同じく大応が、天正十二年（一五八四）開創した長国寺（同郡同町大字田野上九一四）以下四カ寺を持つ小本寺となった。

ところで仲翁順興は、天文元年（一五三二）、徳合城主村山安芸守の開基により、宝昌寺（西頸城郡能生町大字徳合二一四一）を開創した。その後、永禄二年（一五五九）、西頸城郡名立町大字車路三八三に常泉寺が開創されたが、仲翁は勧請開山の住位に列せられた。またこの常泉寺は、天正四年（一五七六）、同寺三世円窓全鑒開創の長沢寺（同

郡同町藤崎三二二）、天正六年（一五七八）、常泉寺五世了室順達の竜昌寺（同郡名立町大字杉野瀬一九）の末寺二カ寺を持つ小本寺となった。

かくて信濃興禪寺天真系の一派は、名立寺、常泉寺を中心に上越地区に活発な教線の拡大をはかった。

次に転輪寺派と同じく妙高庵―越前慈眼寺―丹波円通寺の流れを汲む若狭諦応寺（福井県遠敷郡上仲町安賀里三三）一派の活動がある。

若狭諦応寺雪岡（圍）全林（越前慈眼寺一一三世中巖宗恕の法孫）は、天正十一年―文禄四年（一五八三―九五）、開基溝口秀勝の招請により加賀（石川県）大聖寺に大麟寺を開創し、師の雪堂元初を勧請して開山とした。その後、秀勝の新発田移封と共に当寺も、慶長三年（一五九八）、新発田に移り、五十公野を経て現在地新発田市諏訪町二―四―一七に堂宇を建立し、寺号を浄見寺と改名したが、宝永六年（一六〇九）さらに宝光寺と改められた。宝光寺は、江戸時代、藩主溝口家の菩提寺・祈願所として、また領内曹洞宗の触頭を勤め、末寺一五カ寺を持つ小本寺としてめざましい活動をなした。

ついで宝光寺二世となった雪岡全林は、慶長元年（一五九六）、宗福寺（新発田市大字米倉一〇〇二）を、続いて慶長三年（一五九八）泉蔵寺（同市山内一一四〇）をそれぞれ開創した。

次に天文元年（一五三二）、宝光寺四世嶽翁麟鷲は、華報寺四世芳庵光顯（尖頤）（一一五四）創建の真言宗広岸院を曹洞宗に改宗して開山とした。広岸院はのち寛永四年（一六二七）に養広寺（北蒲原郡京ヶ瀬村駒林一七六七）と改名された。また当初薬師寺を称し、持統天皇九年（六九五）より養老三年（七一九）を経て天曆二年（九四八）に至る頃まで法相宗・密宗として活躍してきた寺院が、文安の頃（一四四四～四八）、同じく華報寺四世芳庵光顯によつて曹洞宗に改宗され、寛文九年（一六六九）華報寺をはなれて宝光寺末となり、長安寺（豊栄市長戸呂七七七）と改名されるに至った。この長安寺は改名以前に、すでに同じ華報寺の芳庵によつて天文十二年（一五四四）開創された薬師庵（同市高森四九五―四）を、天正年間（一五七七―九二）に末寺にしているのである。

さて前述した新発田藩主の溝口秀勝の室（永井氏娘―諡

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

瑞雲院殿）は、慶長元年～三年（一五九六～九八）の間に、大聖寺に玉窓庵を開基、のち夫秀勝の新発田移封と共に、新発田五十公野外城村に移り、玉窓寺として堂宇を建立、宝光寺四世嶽翁麟鷲を勧請して開山とした。玉窓寺は寛永十一年（一六三四）秀勝の室の諡に因んで瑞雲寺と改名され、元禄五年（一六九二）現在地新発田市中心町一一八に移転された。瑞雲寺は、慶長元年（一五九六）雲洞庵十六世不学宗吞（一一六二二）によつて開創された高德寺（新発田市上新保一〇二九）を、正保三年（一六四六）瑞雲寺二世観翁全察が高徳寺に勧請されて以来、末寺となすに至っている。

このように、若狭諦心寺一派の通幻派―天真系の禅風は、新発田・宝光寺の小本寺を中心に宣揚されたと言つてよい。さて次に天真系には、さらに妙高庵―越前慈眼寺の流れで越前永春寺（福井市九十九二―一七一）一派がある。

越前永春寺は天真系の曩祖天真自性開山慈眼寺の直末寺である。永春寺の開山は慈眼寺四十七世芥室令拾であるが、永春寺七世輝山芸暲は、永禄二年（一五五九）、西頸城郡名立町小泊三六三に池垣市右エ門・池亀両氏の外護を得て

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

宗竜寺を開創して永春寺の末寺となした。ついで宗竜寺の二世仁庵義守は、永禄五年（一五六二）、森山城主安達左エ門の助援を得て真言宗の古刹を曹洞宗に改め、善興寺（西頸城郡名立町大字森五〇一）を開創したとされる。

このように越前永春寺一派は、宗竜寺およびその末寺善興寺によつて中部上越地区に扶植されたのである。

ところで応永三年（一三九六）如仲天間によつて開創され、のち長善寺三世源峯芳達によつて中興されて傑堂系となり、下つて明暦三年（一六五五）浄見寺五世超天玖越（一六四四）＝宝光寺五世起天紋越の開山によつて再中興されて通幻派＝天真系となり、ついで寛文十二年（一六七二）に現山寺号となった来迎寺（新発田市大字五十公野五〇二七）の活動について少し触れておきたい。

まず天正十年（一五八二）直江山城守兼統の老臣渋谷近栄（入道浄心）が西小路に桂昌寺を建立したが、その後、荒廃し、江戸時代に入り、来迎寺二世（宝光寺六世）端雄寅州（一六六三）が再興し来迎寺の末寺とした。そののち桂昌寺は養源寺と改められ、さらに光源寺（新発田市大字五十公野一七六六）と改称されて今日に至っている。

続いて端雄は、慶長二年（一五九七）以前、新発田・下名柄に一泓梵易（一五九七）が建立した竜蔵寺の開山となり、これを来迎寺の末寺とした。その後、竜蔵寺の堂宇は沢田を経て昭和四十五年（一九七〇）現在地新発田市西名柄九二に移転し現在に至っている。

かくして来迎寺は、その後、清源寺（新発田市大字丑首一五八）、白蓮寺（同市大字五十公野一八五六）、薬師寺（同市大字五十公野五〇〇五）、大仙寺（同市古寺一八二）、千光寺（同市大字五十公野五〇二二）、竜昌寺（同市大字五十公野四六九一）、竜泉寺（北蒲原郡聖籠町大字藤寄一一八二）、慈眼庵（同郡同町笠柳）の八カ寺の末寺を加え、現在は合計一〇カ寺を持つ小本寺として、宝光寺を本寺と仰ぎ、通幻派＝天真系の一翼を担って洞門の禅風を発揚しているのである。

六 通幻派＝石屋系の動き

次に通幻派＝石屋系の活動についてふれておきたい。

石屋系については、別稿に既述のように室町時代、寛正元年（一四六〇）に、薩摩福昌寺（鹿児島県川内市向田町

一〇八〇）―周防泰雲寺（山口市下小鯖二三三八）の流れを汲む羽前（山形県）洞興寺（山形県寒河江市白岩大字白岩一八三七）の四世檀嶺元郁（一五三八）開山の長善寺（北蒲原郡豊浦町吉浦一九二）が開創された。戦国時代に入り、長善寺二世一爺正遵は、大永元年（一五二一）新発田に満徳寺を開創した。満徳寺はそののち天文年中（一五三二―五五）現在地新発田市長畑一六〇に移転され、延享二年（一七四五）には鳳林寺と改名され今日に至っている。ついで天文元年（一五三二）長善寺可翁遵奘が全昌寺（新発田市城北町二―二四）を建立して長善寺末としたのである。

一方、室町時代において、薩摩福昌寺―周防竜文寺（山口県徳山市大字長穂一〇七五―一）の流れを汲む紀伊安楽寺（三重県熊野市有馬町一八〇二）の三世耕陰道夫（一四八六）が、文明十一年（一四七八）直江家（直江実綱）の菩提寺として開基された徳昌寺（三島郡与板町上ノ山六〇二五）の開山となった。戦国時代に入り、徳昌寺二世壽山篤彰（一五二〇）は、貞観年中（八五九―七八）天台宗として草創、のち寛正四年（一二四六）臨済宗紹応寺と

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

して再建、のち文安四年（一四四七）焼失した旧跡を、永正元年（一五〇四）復興して曹洞宗正応寺（三島郡出雲崎町大門八四）とした。その後、壽山は、永正十七年（一五二〇）以前に、刈羽郡西山町大字鎌田五九七に妙照寺を開創して末寺とした。さらに徳昌寺三十三世大運禪山は、慶長年間（一五九六―一六一四）、三島郡与板町字南田中一二二に観音寺を開創して末寺としたのである。かくて石屋系の曹洞禅がはるか鹿兒島に大本寺を、山形・三重の県外に本寺をおいて、下越・中越両地区に入って宣揚されたことは注目すべきであろう。

七 その他の派系の動き

最後にその他の派系の動きについて少し敷衍しておきたい。

まず、越後の出身で、最初に越後に曹洞禅の法幢を樹立した源翁心昭の開山所、陸奥（福島県）示現寺（耶麻郡熱塩加納村熱塩）の七世桃溪玄朔は、永正六年（一五〇九）、東蒲原郡鹿瀬町大字実川に山溪寺を開創して源翁派の禅を扶植し、数少ない同派に花を添えるに至った。

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

次に石川県鳳至郡門前町広瀬一三にある覚皇院（總持寺山内大徹宗令の塔頭伝法庵内）の九世立山宗譽が、室町時代、寛正三年（一四六二）に広徳寺（東頸城郡松代町字松代一九三二）を開創したとされている。ついで寛正六年（一四六五）、越中（富山県）大川寺三世歙嶽雄欣（観岳紹忻）（一三八五―一四七三）は、現東頸城郡松代町室野地区にあった観音堂を鈴木五右エ門の外護を得て現在地同郡同町松代四〇七二に移転し伽藍を整備して曹洞宗長命寺を開創した。またこれよりさき文安二年（一四四五）、松之山浦田口字中の入の村山藤右エ門が陽徳庵を創建したが、その後、長命寺四世大広益周を招いて開山とした。ついで安土時代に入り、天正二年（一五七四）、十四代村山正直は荒廃した庵を復興し、長命寺八世堯雲泉竜を招請して中興開山とし、寺号も陽広寺（松之山町松之山一二〇九）と改名され長命寺の末寺となった。

かくて十四世紀末葉に早く越後に足跡を印しのち法系を断った大徹派は、再び十五世紀後半において、上越地区東頸城の豪雪辺陬の地に扶植されたのである。

次に中世に創立し現在明峰派（峨山韶碩の法兄明峰素哲

の法系に属する派）に属している寺院に徳泉寺（上越市東雲町二一三一）がある。徳泉寺は、明応二年（一四九三）、通幻派一了庵系の春屋宗能の法嗣月窓明潭（一四二五―九六）の隠居所として長尾氏が開基し、のち永禄年中（一五五八―七〇）上杉謙信の外護により法地に昇格した。ところが貞享三年（一六八六）大風のため諸堂倒壊し廃寺となった。その後たまたま宝暦四年（一七五四）郷土の学僧、卍山道白（一六三六―一七一五）の法孫、加賀大乘寺三十八世逆水洞流（一六八五―一七六六）が退董の志あり、これを迎えるに当たり、今町大肝煎福永重三郎が中世の名刹「聖寿山至徳寺」の古跡の現在地に、官許を得て伽藍を建立して引寺開基となり、逆水を招請して引寺開山としたのである。徳泉寺は後世末寺二カ寺を持つ小本寺となっている。近世に入っても明峰派の越後への扶植は少なく、徳泉寺の開創、存在は貴重な意味を持つものといえよう。

おわりに

以上、中世越後における禅宗教団の展開を背景に、特に越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展について、

既存の諸史資料を中心に筆者が作成した、この時代に開創・改宗の曹洞宗寺院の概要一覧表によってその趨勢を述べてみた。

これを要するに、越後の禅宗教団は、はじめ鎌倉時代に臨済禅の扶植によって成立し、南北朝・室町時代に、曹洞禅の進出によって、臨済・曹洞両宗を含む禅宗教団として形成された。その経緯をたどると、まず臨済禅が奈良・平安の旧仏教を改宗して発展し、室町末期から戦国時代にかけては、臨済宗に転宗した旧仏教の主要寺院が更に多く曹洞宗に改宗した。こうして曹洞宗教団は、この時代の領主層の武士の帰依と外護を得て、旧仏教と臨済禅を改宗しつつ、一方、新寺院を多く開創し、真宗教団等に拮抗して隆々たる発展をとげた。

さらにその教団内部の各派系の活動を考察すると、まず、峨山韶碩を派祖とする峨山派總持寺教団が殆ど支配的に大勢を占めているが、明峰素哲を派祖とする明峰派永光寺教団系の寺院も点在していることが知られる。

ついで、この時代は、前代に引き続いて、太源派傑堂系の活動が活発であるが、十六世紀の半ばから後半にかけて、

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

上杉謙信の帰依を受けた通幻派了庵系の上野雙林寺派が、林泉寺を中心に、曹洞宗教団の支配的地位を占めるに至った。しかも了庵系には、この雙林寺派のほかに、下野瑞光寺・相模松石寺・陸奥長祿寺・下野大中寺各派なども越後に入り、戦国末期においては、通幻派了庵系は他の派系を圧倒して、佐渡を除く越後に君臨した。かくて通幻派は、了庵系を中核に、さらに普濟・天真・石屋の諸系派と提携しつつ、越後全域に亘って教線を拡大した。

そのほかこの時代において、一旦、灯を断った峨山派總持寺教団の大徹派、および明峰派永光寺教団系の復活も注目すべき活動といえよう。ただこの場合、ほかの派系も例外ではないが、人法と伽藍法の一致が崩れ、むしろ寺院を維持し、伽藍法を伝えることが優先して、他派系による寺院の相続がより可能になったことは一つの時代のもたらした変化であろう。即ち、道元以来の曹洞禅の伝灯である一師印証、面授嗣法を基本とした師資相承の現実的困難性が時代と共に現われ、それは同時に他派系との交流によって宗侶たちの同志的結合が自覚され、教団自体の和合団結が固められたことを意味するものといえよう。

越後曹洞宗教団の戦国、安土・桃山時代の発展（竹内）

またもう一つの傾向として、十六世紀の後半になると、前代に創設した寺院を本寺と仰ぎつつも、末寺を持たない寺院が多くなったことである。これは曹洞禅の教線の定着と末派寺院の民衆に直結した自由な布教活動を意味するものである。

ところで、これまで、越後においては、一般に門外不出として秘蔵されていた三物（嗣書・血脈・大事）、自派系の禅の極意、行持の秘伝を示す切紙などの中世禅宗史資料も最近は公開されるようになってきた。例えば、長岡市史双書No10、『村は北谷にあった』所収「洞照寺文書」（平成六年三月再版、長岡市史編集委員会中世史部会編集）、「中世妻有の禅宗教団（三）」『市史リポートとおかまち』所収「智泉寺資料」（平成七年三月、十日町市史編さん委員会編集）などがそれである。

また平成元年七月二十六日～二十八日に曹洞宗文化財調査委員会によって行われた新潟県下文化財調査の成果が目下『曹洞宗報』（曹洞宗事務庁発行）誌上に発表されつつある（平成八年九月号―七三三号―）。

これらの史資料を中心に、戦国時代およびそれ以後の中

世禅宗思想を探索しつつ、如上の曹洞宗教団の目ざましい活動、発展について、上杉氏を頂点とする越後の武士階層およびその支配下にあった民衆の生活との関わり合いを軸に、さらに宗教思想の面から考究することが今後の課題といえよう。